

長 薬 同 窓 会 報

Alumni Association

School of Pharmaceutical Sciences

Nagasaki University

第 54 号 (2014年)

目 次

同窓会長挨拶……………山中 國暉（昭43）	1
薬学部長挨拶……………中山 守雄	2
平成26年度長薬同窓会定期総会・講演会・懇親会……………	3
平成27年度長薬同窓会定期総会のご案内……………	4
柴崎壽一郎先生を偲んで……………	5
松村祐子（昭40），小池正博（昭47），相川康博（昭48），昭和59年卒業生，伊豫屋偉夫（昭41）	
支部だより……………	10
関東支部，近畿支部，広島支部，大分支部，熊本支部，長崎県央支部，長崎支部ぐびろ会	
クラス会および近況だより……………	17
服部俊明（昭28），郷野美智子（昭30），青木 昇（昭37），伊豫屋偉夫（昭41），高松 薫（昭42）	
木原隆英（院昭43），石田照彦（昭50），町田 毅（昭53），七種 均（昭56），山口正広（昭56）	
高良真也（昭57），昭59卒業生幹事一同，澤勢瑞城（平15），高原規子（平17），稲嶺達夫（平18）	
藤井修平（平18），矢ヶ部良太（平26），松本啓秀（学部3年），松尾洋介（平15），宮元敬天（平20）	
クラブOB会だより……………	40
野球部，バスケットボール部，硬式庭球部	
庶務報告……………	43
物故者氏名，学内記事	
長薬同窓会役員名簿……………	46
長薬同窓会支部一覧……………	47
会計報告（平成25年度決算，監査報告，平成26年度予算）……………	48
新刊図書のご紹介……………	50
同窓会事務局だより	
編集後記	



ご 挨 拶

会 長 山中 國暉 (昭43)

今年の日本列島は異常気象で突然の大雨，土石流，竜巻と種々の大きな災害に見舞われ，広島，京都など全国各地で被害が続出しています。会員の皆様はいかがだったでしょうか。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

大分県別府市で開催された平成24年度長薬同窓会定期総会で会長を仰せつかって3年がたちました。私たち役員は「顔の見える同窓会」をめざし，多くの会員の皆様のご協力を得て，長薬同窓会発展と会員皆様の交流促進につとめました。

今年，平成26年度の長薬同窓会定期総会は，去る6月7日，ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルにて開催され，長崎支部ぐびろ会のお世話のもと盛会のうちに無事終了いたしました。(参加106名)

総会に引き続き，長崎大学薬学部の川上 茂教授(平7)にご講演いただきました。ご講演では，薬剤師や薬学部，そして創薬研究に訪れた変革の波や今後の課題についてわかりやすく解説して頂き，さらに加速する医薬品研究の世界で川上教授が取り組まれている最先端の創薬研究についてご紹介して頂きました。

懇親会では，会員に加え20数名の準会員(学部学生)も参加し，さらに，薬学部サークル「ブルーマウンテン」によるバンド演奏の披露もあり，旧交を温めるだけでなく新たな繋がりも生まれる素晴らしい機会となりました。会の様子につきましては，ホームページへ掲載しておりますのでご覧ください。

同窓会本部では毎年8月，グビロが丘(長崎市坂本町)防空壕跡原爆慰霊碑周辺の清掃を同窓生有志と準会員(学部学生)有志に参加して頂いて行っておりますが，今年は大雨のために行うことができませんでした。9日には医学部主催の原爆犠牲者慰霊祭へ参加しています。11月には小野島校舎跡記念碑(諫早市)の清掃も行いました。

また，今年は11月8日(土)に薬学部主催の『先導的薬剤師の未来像を考えるシンポジウム』を後援しております。

これまで，同窓会に振り向いてくれない会員に対し「顔の見える同窓会」として種々の対策を実施しました。在校生に対し，学祭出店の補助，スポーツ大会等で優秀な成績を収めたチームへ金一封の進呈，記念(卒業)アルバム作製にも補助を行ってきましたが，今年も同様に行いたいと思います。

さらに本年度より，薬学部1年生全員に，同窓会ロゴ入りの白衣を贈呈することになり，第1回目の白衣贈呈式が10月2日(木)に薬学部多目的ホールにて，薬学部長，同窓会役員の参列で行なわれました。

なお来年度の定期総会は北九州支部のお世話で6月13日(土)小倉ステーションホテルにて開催予定です。多数のご参加をお待ちしております。



長薬同窓会の皆様へ

長崎大学薬学部長 中山 守雄

長薬同窓会の皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。また、皆様方には、常日頃より、長崎大学薬学部にご支援いただいておりますことに対し厚く御礼申し上げます。私、学部長として、ご挨拶させていただくのはこれで4回目、今回で最後になります。これまで学部長を務めさせていただきました3年と7ヶ月の間に、6年制薬学科の1期生、2期生、そしてこの春には、3期生を送り出すことができました。御家の安泰は3代目で決まるとも申します。薬学部6年制の教育体制も、おかげさまでひとまずは安定期に入ることができたと思っております。

ところで、卒業生は全体で73名、そのうち6年制課程薬学科の3期生は36名で、内定時の内訳は、保険調剤薬局希望者が11名でありましたが、そのうち7名は全国規模で保険調剤薬局を抱える企業へ就職を決めています。一方、病院薬剤部への就職内定者は19名でした。ここで、内定者という言葉を使わせていただいたのには、理由があります。実は、薬学科の卒業生、36名のうち、6名が、国家試験に合格していません。昨年は、現役学生の合格率は、事実上100%とご報告したのですが、今年の現役学生の合格率は、残念ながら83%となったことをご報告せねばならないことを心苦しく思っております。もっとも、大きく後退した全国平均をはるかに上回っているとはいえ、国家試験合格率に関しては決して安定させてはいけない結果となっています。試験問題の出題傾向と難易度が変化していることも一因であるとはいえ、今後、試験問題がやさしくなることはありえませんが、今年度は、教員、学生ともにこころして、臨んでいるところ です。

一方、4年制課程の薬科学科の卒業生は37名で、ほぼ、大学院の博士前期課程に進学しておりますが、6年制課程の学生と同時に入学し、今年3月に博士前期課程を修了した学生は47名でした。そのうち、本学の博士後期課程生命薬科学科への進学者が、11名となり、はじめて、10名の定員を充足することができました。また、製薬関連企業への就職は6名、化学関連企業への就職が5名、ただ、今年は、科目等履修生となった学生が5名もいるというのも、はじめてのことでした。以上は、大学の出口の状況ですが、入り口の入学試験の状況は、前期課程入試の倍率は、6年制課程が4.6倍、4年制課程が5.5倍と依然、高倍率で推移しており、薬学部の人気の高さを示しております。

大学院については、4研究分野名の変更がありました。分子薬理学が創薬薬理学へ、生物薬品工学がゲノム創薬学へ、医療情報解析学が医薬品情報学へ、病院薬学が実践薬学となりました。また、昨年ご報告致しましたように、医療科学専攻の展開医療薬学講座へと移行した薬物治療学、医薬品情報学、薬剤学、実践薬学の4研究室が、来年の春には、坂本キャンパスへ移動し、いわゆる分離キャンパス状態になることから、移動に伴う不都合が生じないように、時間割等の

変更作業を終えたところです。また、この春から、長崎大学には多文化社会学部が新たに設置されましたが、この新学部は、まだ、独自の建物をもっておりません。その関係で、残りの研究室の坂本キャンパスへの移転も、予想より早まる可能性はありますが、ここ当分は、この分離キャンパス状態での対応が続くことを覚悟しております。

次に、この1年での主な教員の異動について報告いたします。すでに、ご存知の方も多いと思いますが、医療情報解析学の准教授として薬学部の教育研究にご貢献いただきました和田光弘先生（平4）が、九州保健福祉大学薬学部の教授として栄転されました。同じく、医療情報解析学助教の池田理恵先生（平13）も同時にご退職となりました。池田先生には、薬学部唯一の女性教員としてご奮闘いただきましたが、代わって4月からは新たに長薬同窓会会員の2名の女性教員に助教として加わっていただくことになりました。お一人は、衛生化学の吉田さくら先生（平19）、もうお一人は、医薬品情報学の測上由貴先生（平22）です。また、同じく3月には、薬品製造化学の高橋圭介先生（平13）が、東邦大学薬学部の准教授として栄転されました。その他には、2月に衛生化学の淵上剛志先生が准教授に昇任、同じく2月に、薬化学の助教として上田篤志先生、4月には感染分子の助教として春山貴弘先生、10月には、創薬薬理学の准教授に塚原 完先生、11月には、薬品製造化学の助教に西丸達也先生（平23）が着任されました。さらに、長崎大学創薬拠点では、酒井佑宣助教、水谷龍明助教が退職され、米澤 朋准教授が着任されています。なお、薬物治療学の稲嶺達夫先生（平18）は、この10月より、カリフォルニア大学サンディエゴ校での2年間の留学のために渡米されています。

最後になりましたが、今年度、長薬同窓会の皆様方のご好意により、在校生へ白衣を贈呈していただきました。その感謝の意味をこめて、この10月に、2年生と1年生に白衣授与式を開催致しました。1年生の白衣授与式の際には、長薬同窓会会長の山中先生、副会長の七種先生、中嶋先生他、学内の幹事の先生方にご出席いただき、山中会長から学生代表に白衣を手渡しで贈呈いただきました。白衣は、同窓会の紋章がプリントされた立派なもので、厚く御礼申し上げます。詳細は、写真とともに、長薬同窓会ホームページで紹介して頂いておりますので、ご覧頂きたいと思います。また、あわせて、薬学部ホームページトップの学術情報にもお目通しいただき、学生、院生、教員の研究活動での活躍もご覧いただきたいと思います。

以上、長崎大学薬学部の近況を報告させていただきましたが、いよいよ、来年は、薬学部創立125周年を迎えます。これにつきましては、皆様方の一層のご支援とご協力をお願いする次第です。

末筆になりましたが、長薬同窓会の益々の御発展をお祈り申し上げます。

平成26年度長薬同窓会 定期総会・講演会・懇親会

本年度は、長崎支部ぐびろ会（濱田哲也会長）のお世話で、平成26年6月7日（土）に長崎市のANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルで開催されました。106名の同窓会会員のご参加により、無事終了いたしました。

した。総会に引き続き川上 茂教授（平7）のご講演がありました。また、懇親会の余興では薬学部サークル「ブルーマウンテン」の演奏の披露もあり、大変盛大な会となりました。その模様を一部ご紹介いたします。



総会



総会



北九州支部長挨拶



講演会



薬学部長挨拶



長崎支部ぐびろ会会長挨拶



懇親会



懇親会



懇親会



懇親会



平成27年度長薬同窓会定期総会のご案内

日時 平成27年6月13日（土） 18：30～総会 19：30～懇親会

場所 小倉ステーションホテル

福岡県北九州市小倉北区浅野1丁目1-1 Tel 093-541-7111

来年の定期総会は、今年の長崎から長崎街道を巡り北九州・小倉で開催されます。長崎街道は8脇街道の一つで、長崎・小倉間の57里（約228km）、25の宿場の道のりです。小倉からは海路にて大阪へ、その後陸路にて江戸へと続く重要路でした。将軍吉宗のリクエストで来日したベトナム象、歴代長崎奉行、シーボルト、坂本龍馬……など多士済々が往来しています。始点の常盤（ときわ）橋は、会場の小倉ステーションホテルから歩いて5分程です。橋を渡り、当時に思いを馳せるのも一考です。北九州支部一同心より歓待いたしますので、より多くの同窓生のご参加をお待ちしております。

柴崎壽一郎先生を偲んで



薬剤学のこと

松村 祐子（昭40）

50年も前になる。柴崎先生は髪はふさふさで歩くたびに上下にゆれた。くすんだ緑色に白抜きの水玉模様のネクタイをいつもしておられた。

薬剤学教室ではスルファメトキサゾールの代謝の実験をしていた。私はその代謝物の同定のための化合物を合成していた。スルファメトキサゾールの酸化に使う次亜塩素酸を作るのだったができたらずに塩素に変わる。スルファメトキサゾールに次亜塩素酸や過酸化ナトリウムを作用させると環を巻く。過酸化ナトリウムでの加水分解を薄層クロマトで見ると、体内の代謝の様子とよく似ている。こそこそ実験していると、同様の実験を熊本大学でしている人がいると教えて下さったりした。

その頃、大勢が行きたがる教室と学生が集まらない教室の調整がつかなくて、教授会で「田中君はトイレの傍なので薬剤学教室を選んだ。教室選びなどはそんなに大層なものではない」と先生が言われたそうで恥ずかしかった。

よく勉強したけれど、週末は教室員全員で金比羅山に登った。卒業式には奥様手作りの巻き寿司やぜんざいで祝っていただいた。

柴崎先生は附属小学校の学校薬剤師をされていて、先ごろ亡くなられた野川先生など、学校薬剤師の先生が集まってよく実験をしておられた。給食食器のユリア樹脂

の（食品への）融出試験や手の平の細菌の培養などなど。

私は薬剤学の研究には貢献しなかったけれど、報告（発表）する時は「誰でもがその通りに実験して毎回同じ化合物、同じ結果がでないといけない」としっかり教えられた。その人しかできない。または、できたりできなかったりではだめ。いつでもどこでもきちんと同じ結果が出るように資料を作成するように指導された。

今も学校薬剤師を努めている。昨年は、小学6年生96人にアルコールとたばこと薬物乱用防止の話をした。先頃、長崎の朝永亜沙美先生がパソコンを駆使して、薬物乱用防止のお話を小学6年生にしたと発表された。プリントのみで話した私はかなわないと思った。メールなどの絵文字や何か、子供達の目を引きそうな絵がいろいろ入っていて、あれなら子供達も聞くだらうと思った。ただ、薬物に手を染めたらいけないとおばあさんの学校薬剤師が必死に話したことで、一人でも薬物乱用を思い留まってくれたらと願った。

そのような事もときたま手紙に書いて先生に報告していた。先生からは簡単なお返事が来たり、年寄りへの慰問だとお返事があったりした。もうつまらない事を聞いていただくこともできない。

柴崎先生さようなら。

柴崎先生の思い出：昭和46年から昭和49年までの薬剤学教室

小池 正博（昭47）

私が、柴崎先生のお世話になったのは、学生運動が一息ついて、学内がやや落ち着いてきた頃でした。4年生に進学するときに自主的に配属講座を決めなければなりません、薬剤学教室の希望者は女性が6人、男性3人と定員オーバーでした。ジャンケンで決めようとの話も出ましたが、先生に直接お願いに行って結局全員受け入れてもらえ、薬剤学教室は大学院生4名と4年生9名の合計13名の大所帯になりました。この薬剤学教室で3年間在籍させていただいたことが、私の人生を変えるひと

つのターニングポイントになりました。

柴崎先生の主宰されていた薬剤学教室では、今では薬物動態学と言われていますが、当時は薬動力学（Pharmacokinetics）と呼ばれていたあまりなじみのない学問をやっていました。最新のアナログコンピュータ（アナコン）を使って、体内に投与された薬の動き（吸収・分布・代謝・排泄）を数式で表わし積分計算をするのですが、当時、薬動力学をやっていたのは、東大と京大くらいのごく少数で、日本の西の端の地方大学が世界

の最先端の学問で競争していたことに誇らしく思っていました。昭和47年頃はコンピュータの性能が今ほど進歩していなかったのですが、教室には当時としては最新の電卓が置いてありました。それは、スーパーにあるレジスターのような大きな形のキャノン製電卓、キャノラという名前の、高価な割には加減乗除しかできない電卓でした。それでも、タイガーの手回し計算機に比べれば、格段便利なものでした。今広く普及しているデジタルコンピュータ（デジコン）はまだまだ性能が悪く、パンチカードに打ち込んだプログラムを大学本部の計算機センターへ持って行って一晩かけて計算をやっていた時代でした。柴崎先生はコンピュータに大変興味をお持ちで、我々もアナコン、デジコン、プログラム電卓など勉強させてもらいましたが、先生ご自身も自宅にNECのPC-8001（最初の普及型パソコン）を買って、プログラム作りを楽しんでおられました。

教室の主な研究テーマは、サルファ剤の代謝、薬物相互作用、サリチル酸系解熱鎮痛薬の体内動態でしたが、多くの業績をあげていました。ウサギにサルファ剤を投与したとき、代謝物（アセチル体）の生成に大きな个体差があること（代謝酵素多型）、トルブタミドはスルファフェナゾールと併用すると酵素阻害により血中濃度が上昇すること（薬物相互作用）、及びサリチルアミドは小腸での吸収過程で代謝されること（初回通過効果）などです。私は、大学院1年生の時に東京で開催された薬学会の年会に発表の機会を与えてもらい、生まれて初めて新幹線で東京に連れて行ってもらいました。発表も無事に終え、いっばしの研究者になったような誇らしい気持ちになったものです。私にとって、この学会発表が、将来研究者として生きる決心をするきっかけとなりました。

当時の薬剤学教室はよく遊んだものです。唐八景でのハタ揚げ、大村湾でのキス釣り、お宮日には諏訪神社の長坂で夜明かし、教室旅行、卓球大会など盛りだくさんの行事がありました。卓球大会では、優勝者に柴崎先生手作りの自筆表彰状が授与され、また教室旅行では、西

日本の最高峰を目指して、四国の石鎚山、そしてその次の年には中国の大山まで足を延ばしました。柴崎先生は同行されませんでしたが、小西先生が旅行に参加され山小屋やテントで学生と一緒に寝起きをともにされたことが思い出されます。

当時の柴崎先生の趣味は卓球でした。3年間毎日、朝7時半から8時半頃まで講義室に置かれた卓球台で卓球の相手をして頂きました。正確な数字は忘れてしまいましたが、千何百試合ほど対戦したと思います。私は20歳過ぎの若者でしたから、先生とは体力の差、実力の差はかなりありましたが、それでも先生はいつも真剣に対戦されていました。先生が初めて私に勝ったときに、小躍りして喜んでおられる姿が今でも目に浮かびます。本当に嬉しかったのでしょう。

卒業してから、薬剤学教室の同門会「シバカリ会」が頻繁に開催されました。先生の記憶力はものすごいもので、教え子の名前をほぼ完璧に記憶されていました。話し好きな先生は、いつも決まってそれぞれの学生について、在学時代の思い出を話されました。そのお話の中に、我々の話がよく出てきて、「よく遊んだ、でも研究も良くやった。最も活性の高かった年代のひとつだ」とお褒めの言葉を頂き、とても誇らしく思っていました。

私は薬剤学教室での3年間、柴崎教授、小西助教授、松村助手に暖かく見守って頂きながら楽しい学生生活を送ることが出来ました。純真な学生に育てて頂いたと感謝しています。先生は、ご自身の研究業績を上げることよりも、学生の教育を重視され、私も含め、多くの学生を薬剤師、研究者として社会に送り出して頂きました。卒業後40年ほどの間に2～3年毎に開催された「シバカリ会」には、毎回会員の半分を超える人が集まっていますが、これも先生のご人徳によるものと思います。先生から頂いたご恩に報いることも出来ない間に残念ながら天寿を全うされました。生前のご恩に深く感謝するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

柴崎壽一郎教授を偲んで

相川 康博（昭48）

突然お盆前のある日、柴崎先生が亡くなつたらしいという電話があったので、直ぐに薬剤学教室の同門会であるシバカリ会の伊豫屋会長に確認したところ、7月27日に亡くなっていたとのこと。覚悟はしていたものの、離れて暮らす実の父親を亡くしたような心境でした。

教室の学年の誰かが追悼文を書くようにという指示が巡り巡って、私が書くことになりました。

私たち昭和48年卒の学年は、前もって教室の希望をとったところ薬剤学教室希望者が10数名と大人気で、調整して9名までにはなったのですが、さらに減らすのは困難で、交渉の結果その数で引き受けられました。

50音順で私、井手 清、江島誠治、樹野由子、中西鈴枝、南 紀子、森重徹洋、山崎恭子、力武美好の9名です。

3つの研究室に分かれ、薬物（NAPA：現在アセトアミノフェン）の薬物動態に関してコンパートメントモデルとそのパラメータの設定や、経口糖尿病薬と他薬物併用時の薬物動態やタンパク結合、またそれらのパラメータを求めるためのアナログコンピュータによる解析、DI活動などについて学びました。週1回のカンファ、FORTRAN言語によるコンピュータプログラム作成、抄読会など勉学に精を出す一方、井手と森重両君がハワイアン部員で楽器もカンファ室に常設されていたため

か、歌声喫茶「ヤクザイ」といわれるほど全員でよく合唱しました。

一方で先生は、学問だけでなくいろいろなことに興味を持ち、熱中されました。

そのうち1つは、当時先生は卓球に目覚めておられ、毎朝8時前から別棟1階の講義室にある卓球台で、大学院生の梶保さん（院昭48）相手にやっておられました。そして、全員で卓球大会もやりました。私は都合3年間先生の朝練に付き合ったのですが、最初は簡単に勝つことができたのですが、だんだんと腕を上げられ、卓球大会でも最後の頃には時々負けることもありました。

また1つは魚釣りで、狙いはキス。全員で大村湾で船釣りをしました。当時の大村湾の水質は問題になるほどに悪化しており、大丈夫かという思いもありましたが、結構な数が釣れました。確かこの年に先生は小江原に家を新築して移られたのですが、その新しい家に持ち込んでフライにして全員で美味しくいただきました。

先生には私の人生に大きく関係したことがいくつもありますが、一番は大学院の卒業式の日、これからどうするのかと尋ねられたことです。まだ決まっておらず、漠然と地元に戻って病院薬剤師を目指すつもりだと答えたところ、それなら九大医学部附属病院の薬剤部長に連絡してあげるから研修に行くようにと言われました。言われるままに、ばたばたで開講式に滑り込み3ヶ月間研修しました。学生時代には全く現場を見たことがなく、また先生と同級だったという堀岡正義部長や副部長の青山敏信先生から厳しくまた優しく病院薬剤師とはこうあるべきだと叩き込まれ、真っ白な頭にすんなり入り込みました。実はその研修を受けるためには、試験があって相当難しいことは後から知ったのですが、先生の人脈の広さに感謝するしかありません。

皮肉にも実際に病院薬剤師になるまでには相当な年数を要したのですが、先生から教わった物事は論理的に考え合理的に捌くこと、情報は効率よく正確に収集し分か

り易く提供すること、九大病院で学んだ病院薬剤師としての基本など、それらが一つでも欠けていたら、私の病院での働き方は全く違っていたと思います。

先生との思い出はまだまだ沢山ありますが、全部を書き尽くすことは到底できません。

先生は自分では「人と交わるのが苦手」とよく言っておられましたが、実はもの凄くお喋り好きで、次から次に質問攻めで、またそれに答えるので、お喋りは長時間に及びます。用があつて長崎に行った時に教授室に立ち寄ると、余裕をもってかなり早い時間に行っても昼までかかることもしばしばで、すると必ず吉宗の茶わん蒸し弁当を取って下さる。また、シバカリ会では、7時の朝食から始まり、昼前になったのでとホテルの担当から全員追い出しをかけられたこともありました。

そのシバカリ会には、途中までは定年後に住まわれた福岡県朝倉市美奈宜の杜の家からも快く出て来て下さったようですが、終わりの頃は負担だったようで、ずいぶん歳をとられたな一と感じられるようになりました。それでも、皆と気丈に歓談されていたのですが。

一昨年、最後の住まいとなったマンションから近い二日市温泉での会で、米寿の祝いを行いました。先生らしく嫌がりながらも、皆のリクエストに応じて金色の羽織に大黒天頭巾を被った姿で集合写真を撮りましたが、これが先生との最後の写真になってしまいました。

だんだんと小さくなっていかれるような先生の姿を見るにつけ、もしかしたらこれが最後になるのではという不安と、柳に風折れ無しというか飄々とした風貌は、私の学生時代からずーっと変わらず、もしかしたら100歳越えがあるかもと期待もしてはいたのですが、天上からの呼び出しとあつては如何とも難しいことです。

先生 いずれまたお会いした時は、時間を気にせずゆっくりお話ししましょう。

合掌



平成24年11月10日 於 二日市温泉 大観荘

柴崎先生へ

昭和59年卒の教え子より

8月のとある日、薬剤学教室の先輩や同級生からメールが届きました。柴崎先生がお亡くなりになったとの連絡でした。しかも、2週間ほども前に……。びっくりするとともに最期まで先生らしいなと感じました。

私たちの学年を柴崎先生がどう感じていらっしまったか、もうお尋ねすることはできませんが、決して優秀な学年ではなかったと思います。でも、私たちは柴崎先生の教え子であることが誇りであり、学生の時も、卒業してから、今も、これからもずっと柴崎先生のことが大好きです。ご冥福をお祈りいたします。

井口 浩子

「シバカリ会」開催の便りを心待ちにしていたころ、同級生の木山君から柴崎先生の訃報が届きました。私にとっては、平成24年11月の「シバカリ会」でのお姿が最後となってしまいました。もう先生にお会いできなくなったことがとても悲しく、残念でなりません。「シバカリ会」は、私を心地よく元気にしてくれる究極のビタミン剤のような存在でした。会ではいつも先生の温厚な人柄に触れ、その笑顔に癒され、温かい気持ちになりました。先生の軽快で楽しいトークはとてもおもしろくて、明るい雰囲気の中、毎回元気をもらいました。また、先生の記憶力の素晴らしさに驚かされ、自分もまだまだ頑張らないといけないという気持ちになりました。先生の教え子である先輩方や、同級生の皆様方は、いつも優しい心で接してくださいました。とりわけ、先生に寄り添う奥様のお姿はとても素敵でした。薬剤学教室で素晴らしい師に出会えたことは、私の人生にとって掛け替えのない幸せなことだったと思っています。先生、長い間ご指導賜り有難うございました。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。 合掌。

内海 美保

長崎大学を卒業して約30年。今年もシバカリ会の案内が来るかな？と楽しみにしていたところへの訃報のメール。心臓がドキッとしました。

柴崎先生はいつお会いしても少年のような人懐っこい笑顔と、驚くほどの記憶力で、食事も取らず、機関銃のように話されていました。先生の回りを教え子達が取り囲みお腹を抱えて笑っている。夜だけでは足りず、朝食の時も、少しでも先生の話が聞きたくて皆集まりました。私たちの学生時代の証しがそこにあり、先生のお陰で見知らぬ先輩も後輩も1つに集い、楽しい時間を過ごさせていただきました。シバカリ会の帰り、先生から頂いた皆さんの元気は私を奮い立たせてくれました。

柴崎先生、卒業してからも、いろんなことを教えて頂いてありがとうございました。

林 幸恵

大学の最後の1年間、柴崎先生の薬剤学教室で過ごせて、最高に楽しかった。ラットどころかマウスも触れなかった私が、しかも倍率が超高かったのに、どうして薬

剤へいきたかったのか、ただ柴崎先生と教室の雰囲気が楽しく魅力的だったからだと思う。運よく私も薬剤学教室の一員となれて、こんな光栄なことはない。

ある日、実家がメロン農家だという合コン相手から、大量のメロンをもらった美保ちゃんが、教室へ持ってきて、みんなでメロンを食べたことがある。

その時柴崎先生が、世の中には貧乏人と金持ちとの間を縮めるようなものがある、という持論を披露された。例えば、金持ちがベンツで移動するところ、お金のない者は自転車で移動すればよい。金持ちがメロンを食べるところ、我々はスイカを食べていれば、その差が縮まるではないか、というものだ。ベンツやメロンというものは、そういうものの代表で、なかなか食べる機会のないものを「今日はええもん食べさせてもらおうてありがとう」とおっしゃった。

ユニークな考え方だなあと、このことがとても印象的で、柴崎先生という、メロン理論がいまだに忘れられない。

さて、秋になると、落ちてくる栗を拾って（隣の栗ですが、うちに落ちてくるのです）、マロングラッセを作るのが、毎年の私の楽しみです。

そして、最高に贅沢なお菓子を、拾った栗で作っている時、なぜか柴崎先生の顔が浮かぶのです。

鷺尾 兼寿

今年はシバカリ会が計画されていると聞いていましたので、また先生の楽しい関西弁でのお話が聞けると思っていたところ、突然の柴崎先生の訃報を聞いて大変驚きました。先生のご冥福をお祈りいたします。

森藤 由香

私の薬剤学教室での第一歩は、まだ3年生の年末、柴崎先生に教授室にお呼び出されたことから始まりました。すでに薬剤学教室へ行くことが決まっていたにもかかわらず、薬剤学の実習講義をバイトでさぼったためでした。案の定……でしたが、その後「悪い奴」と呼ばれながらも1年間あたたかくご指導いただきました。

卒業してからは、「シバカリ会」でお会いしましたが、柴崎先生はいくつになってもお変わりなく、あの関西弁のマシガントークは健在でした。前夜遅くまでおつきあいいただいたにもかかわらず、朝食はみんなの時間に合わせて同席して下さって朝からみんなで大騒ぎでした。柴崎先生は「もうあかん、今回で最後や」といつもおっしゃってましたが、なぜかいつまでもお元気でおいでできるものだと思っていました。私は卒業後大阪におりましたので、「シバカリ会」に出席できないことも多く、今となってはもっと出席しておけばよかった、もっと柴崎先生とお話しをしておけばよかったと悔やまれます。柴崎先生にもうお会いできないなんて、まだ実感がわきませんが、これまで学問だけではなく、いろいろなことを教えていただき、ありがとうございました。

最後のシバカリ会??を開催

シバカリ会 会長 伊豫屋偉夫（昭41）

柴崎壽一郎教授が薬剤学研究室の教授をしておられた昭和39年から平成2年までに卒業した同門生が集まり、柴崎先生を囲んで当時の思い出を語り近況を報告する会を昭和48年に設立し、会の名前を柴崎先生から学術的、人間的ないろいろな知識を得て成長しようとの意味を込め、先生の柴を芝に読み替えて「シバカリ会」と名付け、今日まで40年超続いています。毎回、先生の快活な関西弁を聞いて元気をもらってきました。

今年は、先生が数えて90歳を迎えられるので、卒寿のお祝いをしようと話していた矢先、奥様から「主人が7月27日に亡くなりました」との連絡をいただき、びっくりしました。先生のご遺言で、身内だけで葬儀を行い、身内以外には言うなとのことでしたが、シバカリ会には知らせないといけないと思い、二七日が終わったので連絡しましたとのことでした。先生らしいなと思いました。

このため、急遽、今回の「シバカリ会」は先生を偲ぶとともに、お世話になった奥様に感謝をするために開催することにしました。

今年の会は、九州山口薬学大会の長崎開催にともない大会の準備で長崎の会員は忙しく、また、土曜日でも仕事

をしている会員も多いため、大会翌週の11月30日（日）に、「シバカリ会」発祥の地である長崎市新地中華街の「新和楼」で開催しました。

当日は、柴崎先生の奥様、小西良士先生ご夫妻を含め、全国各地から56名の参加がありました。米寿のお祝いの時の先生の写真の前に白い菊の花を献花し、全員で黙祷をしてお祈りした後、会を始めました。始まりは静かでおとなしくしていましたが、卒業年次毎に先生の思い出話を始めると、次から次に先生とのエピソードが飛び出し、笑いの渦の楽しい会となりました。天国で先生も一緒に笑っておられる気がします。

先生が亡くなられたため、今回をもって「シバカリ会」は解散しなければと考えていましたが、笑いの渦の中、皆さんにお話ししたところ、こんな楽しい会を解散はだめだとか、奥様はお元気なので毎年開催しようとか、来年は小西先生の傘寿のお祝いをしようとか、解散反対の意見が多くあったため、来年も開催することにしました。

今回参加できなかった会員の皆様、来年は最後の「シバカリ会」になるかもしれませんので是非時間を作って参加して下さい。



支部だより

●● 関東支部 ●●

支部長 原 正朝（昭60）

関東支部総会を11月8日土曜日午後、「文庫Caféみねるばの森」で開催しました。今年度の総会では、4年間支部長を務められました樋口宗司支部長が退任され、小職が支部長に就任し、幹事長に昭和62年卒の加藤恵介さんが就任することが承認されました。歴史ある関東支部の支部長として同窓会の活性化に努めて参りますのでよろしくお願いいたします。

総会に先立って、城西大学薬学部教授を来年退官される谷 覺先生（昭42）に「大学生生活を振り返って」と題して講演をしていただきました。講演では、まず長崎大学1年生時のコンパの集合写真の紹介がありました。谷先生と同級生で本日の総会にも出席の樋口宗司前支部長、藤本正治さん、渡辺熙さん、私の恩師の故渡辺三明先生の若かりし姿を拝見することができました。続いて長崎大学薬学部生化学教室での研究、大阪大学での研究、城西大学での研究についてわかりやすく紹介していただきました。長年、学生の教育に携わられた経験から最近の大学生気質について、「日本の教育の問題なのか、それとも城西大学の学生の問題なのかはわからないが、学生は口を開けていれば、教師が何か入れてくれる。」と思っているような印象を受ける。しかし、薬剤師国家試験に合格して社会に出

れば、皆しっかりとした薬剤師、経営者として活躍しているので、それ程心配はいらない。6年制薬学部の新コアカリが始まるが本質的な部分での大きな変化はない。いずれ薬剤師のグローバル化は進んでくるであろうとのことでした。



総会は、森田和之さん（昭30）による薬学部校歌斉唱で開会し、樋口前支部長より本日同時刻に長崎大学にて、「第1回先導的薬剤師の未来像を考えるシンポジウム」が開催され、「活躍する長薬同窓生とこれからの薬剤師への期待」と題して、同窓生の講演が行われていること。長薬関東支部幹事長の東邦大学教授加藤恵介先生（昭62）がシンポジウムで講演されていることの紹介がありました。長崎から来賓としてお越しいただいた原田 均様（昭51）からは、同窓会の活動状況として、薬学部1年生に長薬同窓会への参加意識を高めてもらうため、同窓会のネーム入り白衣の授与が行われていること、全国支部長会の計画が



平成26年11月8日 於 文庫Caféみねるばの森

あること、同窓会費の過去の未納会費の納入期間が3年に短縮されたこと、来年の総会は6月に北九州市で行われることが紹介されました。

森川慎也幹事（平2）鈴木秀明幹事（平14）からは、平成10年以降の卒業生16人が集まった関東若手の会、昭60年～平13年までの卒業生24人が集まった、関東練達の会の報告があり同窓会をなお一層活性化させていくため、来年は新たな企画で若手の会を催すことが報告されました。

懇親会は、松尾一誠さん（昭35）の乾杯の発声で始まり、各テーブルごとに近況報告を行いました。吉岡優子副会長（昭56）からは、11月22日に放送されるフジテレビの「リーガルハイ・スペシャル」で吉岡副会長の著書「カルテの読み方と基礎知識」が劇中の小道具として使われているとのお話がありました。昭和大学薬学部の50周年記念式典に参加されていた黒岩幸雄先生（昭30）と村山信浩先生（昭61）も駆けつけてくださり一層盛り上がりました。懇親会の締めめの挨拶は、服部芳野さん（平23）にお願いし、来年の再会を期して解散しました。

参加者

来賓	原田 均様（昭51）	
黒岩	幸雄（昭30）	森田 和之（昭30）
鈴木	敏忠（昭33）	渡邊三四（昭35）
松尾	一誠（昭35）	樋口 宗司（昭42）
谷	覺（昭42）	藤本 正治（昭42）
渡辺	熙（昭42）	西村 正邦（昭44）
渡部	クリ子（昭48）	平田美恵子（昭48）
小松	則江（昭48）	梶村 博（昭50）
藤竿	伊知郎（昭50）	武永 敬明（昭54）
吉岡	優子（昭56）	原 正朝（昭60）
高橋	薫（昭60）	長尾 公則（昭61）
藤	秀行（昭61）	帆足浩一郎（昭61）
村山	信浩（昭61）	池澤 竜平（昭62）
緒方	孝一郎（平1）	森川 慎也（平2）
松下	陽子（平3）	清岡 長章（院平8）
高橋	圭介（平13）	鈴木 秀明（平14）
服部	芳野（平23）	

●● 近畿支部 ●●

支部長 梶野 繁（昭42）

近畿支部では、本年度の特別講演及び長薬同窓会近畿支部総会・懇親会を平成26年10月11日（土）午後に、大阪弥生会館で開催しました。

長薬同窓会から編集幹事の川上 茂先生をお迎えし、大阪弥生会館で開催しました。支部会員の出席者は久しぶりに、前年より多く集まり、30名を超える参加となりました。総会に先だって行なわれた特別講演は、佐々木均先生（同

窓会副会長；長大医学部教授；長大病院薬剤部長）から「医療産業と医療の動き、薬学、薬剤師の役割」というテーマでお話していただきました。病気回復には医者の方の技術も大事ではあるが、医薬の方が患者の回復には重要であり、医薬品の開発では、研究開発費は増大しているのに対し、新薬の承認は減少している。大企業は中小の企業に種を作らせて、それを買収して苗木まで育てている。医薬品の変化が激しく、強い企業が弱い企業を買収などが起こっている。また、ジェネリック医薬品は、医師が消極的な方が多く、病院等での不採用であり伸びていないとの報告があり、薬剤師もがんばる必要があると思います。

総会では同窓会報告として川上先生から今年6月、長崎



平成26年10月11日 於 大阪弥生会館

で開催された同窓会定期総会で紹介された本部の活動方針や同窓会活性化の取り組みなどを報告していただきました。

また、薬学部近況報告では、6年制大学になり、医学部、薬学部の連携が進み、また薬学部の入学試験における評価は高く、前期日程・後期日程入学試験の倍率が高倍率で推移していることや、薬剤師免許の合格率が83%になっているとの報告がありました。

なお、支部の第1号議案～第5号議案は原案通り承認さ

れました。

総会に引き続いて懇親会は森藤由香さん(昭59)の進行、山戸 寿さん(昭30)の乾杯の音頭から始まりました。今回は5人ずつ、6テーブルに別れ懇談が始まりました。それぞれが順序良く各テーブルを渡り歩き、短い時間ではありましたが大いに盛り上がり、楽しいひとときを過ごすことができました。最後は万歳三唱で終わりました。

また、本年も会員交流と親睦を図るため会報19号を発行します。

●● 広島支部 ●●

支部長 青野 拓郎(昭52)

長薬広島支部同窓会を平成26年11月16日(日)にホテルグランビア広島で開催しました。毎年利用していたホテルの会場が取れなかったのが今回はこちらになりましたが、広島駅の新幹線口に位置し21階の会場で見晴らしも良く好評でした。

長薬同窓会会長の山中國暉先生をお招きして、いつもの年よりやや少ない14名での会となりました。いつも参加して頂いている方々が体調不良や行事の関係で欠席となり少し寂しい人数となりました。

例年通り橋口先生(昭36)の司会のもと始まりました。支部長挨拶、続いて久しぶりに参加して頂いた大石先生(昭35)の乾杯挨拶の後、会食懇談となりました。

歓談途中で来賓の山中先生(昭43)の御挨拶があり最近の長薬の様子や同窓会活動で柏葉のロゴ入りの白衣を1年生へ授与した事などのお話を聞きました。

近況報告では、いつもの年と同様に旅行の話、現在の仕事

の話やご自身の病気の話、ご家族の病気の話等、様々な出来事の話をお聞きました。御夫婦で毎年交互に出席して頂いている村上先生(昭43)からは奥様の多彩なご趣味の話をお伺いし凄いなと思いました。

近況報告が終わったところで写真撮影に移り校歌を斉唱し、最後に品川先生(昭44)の閉会の辞及び乾杯で閉会・解散となりました。

来年も参加者増やすために、同級生、近くの学年の方、同じ教室出身者を誘い合って頂けたらと思いますので、よろしくお願いいたします。特に平成卒の方々に是非参加して頂けたらと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

出席者

大石 輝雄(昭35)	橋口 信彦(昭36)
左利 龍彦(昭38)	清水 捷宏(院昭42)
村上 剛(昭43)	品川龍太郎(昭44)
曾根 正勝(昭46)	青野 拓郎(昭52)
渡辺真由美(昭52)	後河内厚行(昭53)
銭岡 京子(昭58)	岸川 映子(昭60)
手島 賢二(平8)	
来賓 長薬同窓会会長	山中 國暉先生(昭43)



平成26年11月16日 於 ホテルグランビア広島

●● 大分支部 ●●

支部長 石橋 眞 (昭49)

平成26年度長薬同窓会大分支部の新年会を兼ねた総会が平成26年1月25日（土）午後6時30分から、来賓として本部の山中会長と昭和51年卒の原田監事をお迎えして、大分市の大分オアシスタワーホテルで27名（会員172名）の参加のもと開催されました。

どの支部も参加率が悪いとのことですが、大分支部も例にもれず参加者が少なく寂しい気持ちです。平成25年から支部長になった関係で出席者を増やそうと思い、個人的に知り合いの後輩に連絡を取り、昨年より10名ほど増えたと思ったら、昨年の出席者が10名ほど欠席したので、平成25年度と平成26年度の出席者は同数でした。特に、平成25年度は3組の夫婦の出席があり、多いに盛り上がりとても喜こんだのですが、平成26年度は3人の奥さんが出産で欠席ということでなかなかうまくいかないなど実感したところです。

例年、司会は約35年間（？）事務局を担当し、眼の中に入れても痛くない3歳になる孫みたいな娘さんがいる阿部幹事（昭50）のもとで進められます。

まず、新支部長（石橋）が挨拶しましたが、はじめての挨拶でしたので、緊張のあまり言葉もたどたどしくみっともない挨拶となりました。お許してください。来年は頑張ります。

次に山中会長から「最近どの支部も若い人の参加が少

ないこと」、「新役員は顔の見える同窓会をめざし会員交流に努めたこと」、「平成26年度の本部の定期総会は長崎市で開催されるので、大分から一人でも多くの方々の参加をお願いすること」、そして事業報告として「グビロが丘の原爆慰霊碑周辺の清掃」、「諫早市の小野島校舎跡記念碑の清掃」、「ホームカミングデーへの参加」などがあり、最後に、今回出席いただいた原田先生は、「長崎の医薬分業の推進にはなくてはならない存在であること」、「昭和の時代は分業の進捗率も悪く、長崎も盛んでなかったが、当初仲間数人と分業を始め、医薬分業の推進に関われたこと」などの報告がありました。

また原田先生は、2年前まで道の尾病院（長崎市虹が丘町）に勤務されていたそうですが、何かの縁か私が道の尾病院の院長とは知り合いで、懇親の場で話が盛り上がりました。

そして、阿部幹事より会計監査、会員の異動等の報告があり、恒例の記念撮影のあと、我々の誇りである下村博士と同級生であり最後の薬専卒業者である西川大先輩（昭26）から小野島校舎跡の清掃に参加されたことなど旧薬専時代の話があり、乾杯のご発声で懇親会が始まりました。ご出席の皆さんは世代の垣根を越えて多に飲み、仕事や学生時代の話に花を咲かせていました。宴が盛り上がったところで、卒業年次の若い順に近況報告を語りながら自己紹介が行われました。開局された方、病院（薬局）勤務の方、行政の方、卸勤務の方等幅広い同窓が時の経つのも忘れ、昔話に華を咲かせ、美味しいお酒を飲みながら楽しいひと時を過ごされたことと思います。

ここからは、懇親会のある美しい女性（昭48卒）



平成26年1月25日 於 大分オアシスタワーホテル

のお話です。10年以上ご無沙汰だったそうですが、私の勧誘で泣く泣く出席し、現役の皆さんから刺激を受け楽しい時間を過ごしたと言ってくれました。その顔ぶれは「往年の綺麗どころ」が半数以上を占め、新支部長の人柄によるところが大きいかなと思いつつ、同窓会の様変わりをかみしめながらの時間だったそうです。

思えば40年前、社会人1年生のときに、当時幹事をしていた岸川先生（昭25）からのお誘いが始まりだったそうで、その時の女性の出席者は2人だったそうです。それから数年除々に女性の参加者も増え、今回は15人と男性とほぼ同数でした。

私は知らなかったのですが、昭和60年頃から来賓として本部の会長等をお招きするようになったようです。その頃赤ちゃんが誕生し育児に忙しく同窓会どころではなかったそうです。育児が一段落しての数年間は参加した

が、長いブランクは親しい顔と会うこともなく足が遠のき、仕事も第一線を退いてからはさらに「もう参加することもないだろう」と思っていた矢先の誘いだったようです。久しぶりに若い世代の活躍を肌で感じ、これから元気をもらいに参加しようかなと思えた同窓会だったようです。支部長としては大変すばらしい言葉をいただきました。

最後に、恒例の「巻頭言」や「薬学部校歌」を堤 勝也君（昭62）にお願いし、堂々たる声に聞き惚れながら、全員で校歌を楽しみながら散会となりました。今後は、大分支部の活動を活性化（まだ何をしたいのかかわからない？）し、もっと多くの方々の参加に願いこめて筆をおきます。

山中会長、原田監事、豊後の国まで遠路お越しいただきありがとうございます。

●● 熊本支部 ●●

支部長 山本 喜一郎（院昭55）

平成26年度の熊本支部例会・懇親会は、9月の第一土曜日、9月6日（土）に熊本ホテルキャッスルの地下1階菊の間にて開催しました。ホテルキャッスルでの開催は3年ぶりになります。支部例会については、例年6月くらいから会場を検討しはじめて、8月に案内を出していますが、その時点では参加者の人数がはっきりしておらず、会場の選択に頭を悩ますところです。そこで、最近では会場の収容人数に柔軟性がある“ホテル”での開催にしています。熊本の会員は100名を超えていますが、大体15名から20名の参加を目安にしています。

開会に先立ち、平成26年7月2日ご逝去の安東喜久男様（昭23）を悼み黙祷を捧げました。開会の挨拶の後、昨年に引き続き同窓会本部から来ていただいた同窓会副会長の七種 均先生（昭56）から、グビロが丘慰霊碑や小野島校舎跡地記念碑の清掃などの同窓会活動を含めた、最近の長崎の状況をプレゼンしていただきました。

このあと、乾杯の音頭を宮崎賢三さん（昭50）にお願いし、会食・歓談となりました。宮崎さんは、平成22年の例会以来のご参加でした。各種勉強会の幹事をされていて、なかなか日程が合わなかったとのことでした。しばらくして、頃合いを見計らい恒例の近況報告です。実は、私は楽しいお酒が回りすぎてしまい、皆さんの話の内容をあまりよく覚えておりません。幹事として申し訳なく思っています。そんなだらしない私の頭に残っている話を紹介したいと思います。七種くん（本来ならば七種先生とお呼びするところですが、彼とは学生時代からの知己ですので、“くん”ということでご容赦）は、去年

の所属はNTT西日本長崎病院でしたが、今年は十善会病院になっていました。そういえば、NTT西日本熊本病院も今はくまもと森都総合病院になっています。企業立病院にとって、厳しい時代になっているのかも知れません。矢上一英くん（院昭57）は、本当に久しぶりの参加でした。彼は化血研での後輩で、現在は嘱託として勤務しているとのこと。4年前、私の熊本県薬剤師会への転職に際し、仲介の労をとってくれ、感謝しています。転職に際しては、支部例会で秦野正敏（昭56）くんからも情報を貰いました。同窓会のネットワークに感謝です。古海勝彦（昭61）さんは、平成24年の例会に初参加された時は、北九州在住で北九州支部に属されており、新幹線通勤で熊本まで通勤されているとのことでしたが、現在は熊本在住とのこと。一番驚かせられたのは、前田健次（平5）さんです。なんと、長崎で開催されている80kmのマラソンに今年参加されたとのこと。調べてみると、長崎橋湾岸スーパーマラニックというマラソンイベントで、173km、80km、55kmのコースがありました。前田さんが走られた80kmコースは、長崎市水辺の森公園～飽の浦～女神大橋～戸町～鍋冠山～田上～茂木～網場公園～飯盛～唐比～千々石海水浴場～富津～小浜温泉というすさまじいコースでした。

今年は、支部例会常連の平野玲子さん（昭52）、久松貞義さん（昭60）、上仲小玲さん（平6院平8）、および木山雄一（昭59）、容子（昭57）ご夫妻が残念ながら不参加でした。来年お待ちしております。また、新卒者の参加もありませんでした。新卒者は“ご招待”ですので、来年熊本に就職なさる新卒者は、是非ご参加下さい。新しい顔をどんどん増やして、熊本支部例会をますます賑やかな楽しい会としていきたいと思っています。熊本支部の皆様、例会は毎年9月の第一土曜日に開催していますので、是非ご参加下さい。ちなみに、来年は9月5日（土）

です。また、他支部の方で、当日熊本にいらっしゃる予定の方も大歓迎ですので、山本までご連絡下さい。来年こそは出席者20名超えを目指していますので、よろしくお願いします。みんなで、わいわいがやがや楽しくやりましょう。

最後に岩下淑子さん（昭52）にメていただき、閉会しました。その後、二次会へと流れ込んだのは言うまでもありません。二次会は8名の参加でした。

出席者

宮崎 賢三（昭50）

古川 真一（昭54）

秦野 正敏（昭56）

松尾富士男（昭59）

古海 勝彦（昭61）

前田 健次（平5）

来賓：七種 均（昭56）

岩下 淑子（昭52）

山本喜一郎（院昭55）

矢上 一英（院昭57）

矢田 道代（昭60）

山内 秀樹（平2）

上村 裕子（平6）

（以上13名、敬称略）



平成26年9月6日 於 熊本ホテルキャッスル

後列左より、松尾、上村、前田、古海、矢田、秦野、矢上
前列左より、古川、山内、宮崎、七種、山本、岩下

●● 長崎県央支部 ●●

支部長 田中 秀二（昭46）

秋風が快く感じる平成26年10月26日、県営バス諫早ターミナル横の中華茶寮“百葉”において、山中同窓会会長を迎え長崎県央支部総会及び懇親会を開催いたしました。

朝からの雨も午前中で上がり薄日も差す日和となり、当支部としては多い20名の方々の出席をいただき、盛会のうちに終えることができました。

総会ではまず中村支部長からご挨拶と支部長交代の提案がなされ、中村支部長への慰労と支部長の交代について皆様方の拍手で了承を受けた後、山中会長からご挨拶と同

窓会の活動方針や近況、学生への白衣の贈呈、第6回ホームカミングデー2014の紹介などのお話をいただきました。

その後の懇親会では、最長老の高橋先生（昭20）に乾杯の音頭を取っていただき、美味しい料理と飲み物で歓談が始まりました。参加者の方から近況を話していただくなど宴もたけなわになったころ、早崎先生（昭41）から「少しお酒も入り良い気持ちになって来たので尺八を吹きましょう。」と飛び入りで「荒城の月」など哀愁を帯びたすばらしい演奏があり、続いて「私も一曲」と大変お元氣な山本先生（昭30）が立ち上がり尺八を奏で大いに会を盛り上げていただき、皆様方、時間が経つのも忘れ楽しいひとときを過ごしました。

最後に若い（？）世代を代表して山口先生（昭56）の万歳三唱で締めくくり、参加者一同、再会を約束しながら

ら笑顔で会場を後にしました。

ここで、懇親会の席上、大きなご病気を経験された先輩から「病気になっても病人になるな!」との印象深いお言葉をいただいたのでお伝えしておきます。

ところで、まだ参加されていない同窓生の皆さん、支部同窓会は大変和やかな雰囲気ですよ。次回は更に多くの方々の参加をお待ちしております。

最後になりましたが、今年出席された方々を紹介させていただきます。

なお、今回も来られる予定であった西村ヒサ子先生(昭31)が急にご都合が悪くなりやむなく欠席されました。

(出席者)

高橋 安人(昭20)	郷野美智子(昭30)
山本 勲(昭30)	熊本 公子(昭33)
坂本 滋子(昭34)	開 泰二(昭39)
松村 祐子(昭40)	小松 芳文(昭41)
早崎 義信(昭41)	平山 文俊(昭41)
内田 民子(昭44)	中村 和子(昭44)
宮崎 信子(昭46)	岩永 直子(昭46)
川口 房子(昭46)	田中 秀二(昭46)
香月幸一郎(昭46)	藤原 正晴(昭51)
山口 正広(昭56)	高良 真也(昭57)



平成26年10月26日 於 中華茶寮「百葉」

●● 長崎支部ぐびろ会 ●●

会長 濱田 哲也(昭54)

平成26年度の長崎支部ぐびろ会総会は、6月7日(土)にANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルにて開催されました。

長薬同窓会定期総会が長崎で開催されることもあって、多くの方々に参加していただき有意義な総会を経験できましたことをうれしく思います。

水野和美先生(平11)の司会で会次第にしたがい物故会員への黙祷、校歌斉唱、会長挨拶、来賓挨拶と続き、議長に原田 均先生(昭51)を選出し議事に入りました。本部事業への協力ではありますが、長崎支部ぐびろ会ならではの事業報告をご紹介します。

○原爆慰霊碑の清掃

ぐびろ会の名前の由縁にもなっております医学部グビロが丘の防空壕跡地の慰霊碑周辺を清掃しました。

学部学生、大学院生の方々も多く集まって汗だくで頑張りました。

○小野島校舎跡地記念碑の清掃

疎開先であった小野島には狭いながらも立派な記念碑が建立されています。

○全学同窓会ホームカミングデーへの参加

全学の学生さんのパフォーマンスは感動ものです。

ぐびろ会総会後に長薬同窓会定期総会が開催されました。また、懇親会にも全国の同窓の方々に加え大学院生と学部学生にも出席いただき、明るく華やかなひとときを過ごしました。特に薬学部サークル「ブルマン」による学生さんの生演奏には満足していただけたのではと自負しております。ブルマンの皆さん、本当にありがとうございました。

3年に一度の本拠地長崎市で開催される定期総会ですが、準備万端でのおもてなしができずいろいろと不備がありましたことをこの場をお借りしてお詫びいたします。

クラス会および近況だより

エッセイ 3 点

服部 俊明（昭28）

井上ひさし先生との再会 26-5-24

不思議な光景だった。色彩も何だか異様である。そんな中に何とはなしに吸込まれて行った。神戸の須磨区に一の谷の合戦に思いを馳せて在りし古の歴史を偲んでいたのである。そこに有ろうことか井上ひさし先生が現れて、一行の数人と何だか打ち合わせをしておられた。

「やあ先生お久しぶりです。如何お暮らしてましたか」

「なあんだ！ 服部さんではないか！」

「はい、その節は大変お世話になりました。先生亡き後、文の会は有地会長始め皆さんは先生を偲んで、毎年文集を発行し、先日十九文集が完成しました。その外、毎月の通信を出して先生の遺徳を偲んでおります」

「それは良かった。有地会長を盛り立てて下さい。ところで、九条の会はどうなっていますか？」

「先生もお察しのように全国的には大江健三郎先生が、一人十人力で国会にデモを仕掛け、各地での集会を重ねておられます」

「仙台では樋口陽一先生は体調不良、川端純四郎先生は亡くなられましたが、その遺訓を汲んで各地で九条の集会和啓蒙運動を展開しております。明日の25日には澤地久枝先生もお見えの予定です。」

「ところで先生は多分『四千万歩の男』の続編を完成させるために未完の部分を確認するために舞い降りて来られたのではありませんか」

「よく分かりますね」

「それはもう先生の御本は大概読んでおりますので見当は付いています」

「そうだねー、あの頃は別の事件が発覚して、初期構想の七分の一しか書いていなかったからなあ！」

「ではやはり歩測で測量をして居られるのですね」

「・・・」

こうして何時しか暗闇の彼方に消えて行かれたので私はハッと目が覚めた。夢だったのだ（10-4-9逝去）。心理学者のフロイトならこの夢現象を何と解釈するのだろうか？ そしてユングはまた河合隼雄先生ならどんな診断を下すのだろうか。

この一の谷に関しては判官鼻眞な私は昔から「青葉の笛」が愛唱歌の一つだった。この歌の舞台が一の谷である。源平合戦で源義経が鶴越の坂落しを敢行し平家一門を敗走させた有名な古戦場である。その須磨公園には平敦盛の首塚が今も密かに佇んでいるのである。その昔70

数年前に、私が旧制中学の時に同じく旧制神戸一中の数学の教師をしていた叔父を尋ねた時に須磨地区を案内して貰った時の話が下敷の一部であらうか。

句会コスモス中途退会について 26-9-26

私こと、今回後ろ髪引かれる思いで中途退会することになりました。理由は①85歳の超高齢②終活準備③身辺整理④廃車と免許証の返上等です。

此の句会には大須賀先生、橋本会長と遠藤幹事長に魅せられて入会してあっという間に1年半が過ぎました。大須賀先生からは私が一風変わった存在と見破られて、身に余る過分のご案内をいただき恐縮でした。其れもそのはずでした。私は長年井上ひさしの門下生として短編のコラムを書いていたのでした。井上氏は文章は意志を伝える確実な伝達手段として「難しいことをやさしく」「やさしいことを面白く」「面白いことを真面目に愉快地書け」と言っていました。この私の習性は俳句の世界とは相いれず、私はむしろ川柳的になりがちでした。そこで大須賀先生からは、私を見透かしたように、「守」、「破」、「離」と言う餞の言葉を賜って俳句とは別の世界で生きていきなさいと言うような暗示的な言葉を頂いておりました。

私は先生の言葉を理解しながらもそれはそれとして、尊敬する大須賀先生と橋本会長さんを始め句会の皆様に啓発されて今日まで駄作を出してまいりました。汗顔の至りであります。

特に大須賀先生の御人柄と指導力、博学、多才なご知識と居合道など多趣味な生き方に学ぶところ大でした。特に俳句については歴史的な背景、万葉集、古今和歌集や江戸初期の芭蕉や西鶴それに中期の蕪村を経て正岡子規、山頭火や高浜虚子そして現在の俳句の正統派に大須賀流として新風を注いでおられました。

文芸として、また俳句として、切れと暗喩そして余分のものを削ぎ落とし説明と重複を避ける、遠近法、対位法、巨視的、微視的、それに近代感覚の言葉の変遷と由来について、とても面白く教えて下さいました。これらは私にとって何よりの栄養源と活力源でした。また皆様の俳句と一緒に拝聴させて頂き、修辞法と言葉の感性と奥の深さに開眼すること頻りでした。

改めて厚く御礼申し上げます。出来れば終了証書ぐらい頂きたかったのですが残念です。先般褒められた一

句、「七変化一輪飾る余生かな」

今後は残余の年月は幾らも有りませんからエンディングノートの完成に徹していきたいと思います。即ち3S

- ① Simple 簡素に単純に生きる。身辺整理, 羽をたたく。
 - ② Slowly ゆっくりとのろく無理せずに生きる。
 - ③ Steady しっかりと、確実に、周りに負担を掛けない。
- こうして静かにフェードアウトしたいものである。

旭日重光章・福地茂雄氏 26-7-10

長大同窓会員の一人として、4学年後輩の福地氏が春の叙勲で旭日重光章の荣誉に輝かれました。誠に御目出度い限りである。そして日経新聞では去る6月最終ページに私の履歴書の欄で1か月間自叙伝を寄稿しておられました。私と同じく風光明媚な高台に在った大村教養部時代からの専門課程での話は、哲学概論、ヘーゲル哲学(独)、倫理学(ミル英)、経済史、経済学史、経済原論、金融論、財政学、商品学等の名だたる教授の名講義が彷彿と私の青春時代を思い起こされるのである。

氏は学生時代にはケインズの経済学に魅了され、またゼミでは人間関係論に在籍されたという。大学卒業後アサヒビールに入社されましたが、出身の小倉高校を含めて在学中に学ばれた生き様と、入社した会社の上司の薫陶で次のような人生哲学を学ばれました。即ち「人生意気に感ず、功名また誰か論ぜん」「一隅を照らす」「一期一会」を生活信条として業務に精励されました。つまり自分の置かれた場所で最善を尽くし、職責を全うし、上司を支え、寝食を忘れた行動で画期的な業績を残されました。それは時を動かし、時を告げて出世街道を驀進され会社の業績を躍進させ、アサヒビールの社長を経てCEO会長に上り詰め遂にはNHK会長となり、新国立劇場の総長を経て、位、人臣を極められた。この度、旭日重光章の受賞という大輪の花を咲かされました。

話は少し戻るが、長卒卒業後アサヒビールに採用され、配属先はどういう訳か第三志望の営業でした。大阪支店の販売課での営業が社会人としての第一歩となりました。担当地区の販売店を中心に大口消費先のバーやホテルやキャバレーにも毎日数軒を回り、販売促進に精魂込めたという。ここでは馴染みになり、昼食など家族同様に御馳走になったことも度々だったという。

「天網恢恢疎にして漏らさず」の対偶だが、この時営業の神髄を悟り、生きている喜びと感動を体験されました。それは地に足を付けた徹底した地道な営業活動でした。こんな濃密な人間関係と信頼を原点として、抜群の営業成績を更新され続けられました。この功績で名古屋支店に新任の販売課長として赴任される。この時支店長から課長として部下を指導するときの心構えを聞かれたので「自分に出来ることは親切に指導します。」「出来ない問題には出来るように見守ります。」と答えたら、それでは駄目だと言われた。「自分に出来ないことも部下に遣らせ求めるのが課長だ。」と言われた。この問題は職種

の如何を問わず良く出される問題である。大工や左官ならいざ知らず、組織と言うものは、オーケストラの指揮者と同じで、部下の能力を如何に引き出すかである。それには人間としての尊敬と信頼がベースである。こうして課長としての修練を積んで、やがて京都支店長に栄進されたときにリーマンショックによる大不況となった。同じ家族とも信じ合った社員のリストラが降りかかった。本社からリストラ目標3人と言う。此れには頭を悩ませたが蛮勇を奮って古参の社員に好条件を提示して同意していただいた。が、申し訳ない気持ちで円満解決に感謝したと言う。

大阪支店長となり取締役に昇任される。現場主義を率先陣頭指揮に当たり、社の鍵を持ち出社も一番だった。本社営業部長の時は超多忙で書類は車の中で決済。スーパードライを核に業界第一位に躍進させた。

専務から社長に昇任。北九州に帰省してお墓参りをする。母親からは、社長に成っても決して傲慢に成っては駄目だと、丸めた紙の筒で頭を叩かれた。とも言う。

その頃アメリカ経済の視察旅行があり、経団連からの御指導で各業界から一人の枠があった。これには成ったばかりの社長の彼に白羽の矢が立った。そこで会社が気になったが会長から行けと言う指示を頂いて参加した。

たまたまその旅行中、出会われた人の中に富士フィルムの会長古賀重隆さん(後に彼はNHKの経営委員会委員長)がおられた。彼と知りあいになり親交を重ねられた。なおこの時のスピーチで“近年のアサヒビールの改革”と題して「CS顧客満足度」の講演をされた。それが各界の名士達の印象に残ったようで、俄かに知己に与かる名士の輪が行政と産業界に広がったらしい。そこで難なく社長を全うし会長に昇格された。

会長の時それまでの取締役の数を半分に減された。そしてまた社外取締役に竹中平蔵さんと岡本行夫外交専門家を起用して企業の近代化と活性化に努められた。会長の任期が終わったころ、財界ではその業績と手腕が認められて、先述の古賀重隆NHK経営委員会委員長の推薦によりNHKの会長にという話がきた。文化も畑も違うので務まるのかと辞退したが、三顧の礼を尽くされての懇願により遂に会長を引き受けられた。

NHK会長の時、当時そこは諸問題を抱えて世間の批判的であった。放送内容の不透明性、相撲の賭博問題、紅白歌合戦、社員による株の内部取引等が新聞紙上で騒がれていた。是は根が深いと思ひ大蛇を振るわざるを得なかった。そこで着任早々最高幹部約百人を集めて、平素から読書魔の知識の中から印象に残った本から、①アンダーセン発展の歴史②名門アンダーセンの消滅の軌跡を引用して、その組織は僅か5年で栄枯盛衰の幻となったことを例に挙げて、ややもすればぬるま湯に浸りがちな幹部職員に活を入れた。エリート集団の彼らも福地氏の過去の実績から心に届いたようである。以後NHKでは全職場を視察して回り、問題点を指摘して改革に取り

組ませた。また縁の下の力持ちにも光を当てて、組織と人事についても棚渡りをしてガバナンスによる新風を吹き込まれた。やがて任期の3年が過ぎて留任の意見が多かったが潔く退任した。離任式の後、NHKを退去に関しわざと第二通用門から出たが、辺り一面千人以上の熱いお見送りを頂き大きな花束を頂いた。その傍らに有働由美子アナウンサーの姿もあったと言う。

更にまた新東京芸術劇場の総長に推挙着任された。元来それらの地位は、東大法学部卒の超エリート官僚上がりの人か大実業家が就く最後の花道の最終ポストでした。しかしそれらは彼が望み他人の足を引きずり降ろしての栄達ではない。いずれも、押されて、押されて洪々その責任と課題を見極めて引き受けられたのである。新しく着任の都度彼は山積する課題を法令順守して全方的顧客満足度を見極め、快刀乱麻の解決をされました。人員整理をはじめ不採算部門を整理統合し組織の活性化を計られたのだった。

彼が今まで自分を計算に入れずに黙々と職責を全うされた姿は宮沢賢治を彷彿とさせる。しかも引き際が潔い。蜜の味とも言う栄光の地位に留任を請願されても、課題を達成し何の未練も残さず、後進に道を譲り悠然と衆目環視の中で幕を引かれたのは現代の指導者の鑑である。もう少し彼が若ければ、そして総理公選制であれば、是非とも我が国の総理に就いて欲しかった。

理由は彼が経営姿勢に於いて超健全経営者であるからだ。物事を決める時、石橋を叩いてなお渡らず、反対意見を展開した後、成功を確信して初めてゴーサインを出すのである。従って失敗したことがないのである。「己を知り敵を知れば百戦危うからず。」のタイプであった。それだけ自分に厳しかったのである。指導者のあるべき姿を徹底して追求されたのである。幸いにして彼はアサ

ヒビールの地位を4位に低迷していたところを第1位に躍進させた実績が自他ともにそうさせたのであろう。

現在では、一切の公職から身を引いた彼は富士山を眺める山中湖畔の別荘で、好きだった絵をかき晴描雨読の余生を楽しんでいる由。反省点は社内結婚の妻に十数回かの転宅も、子育ても任せっきりで父親らしい事は何一つ出来なかった事だ。しかし二人の子供は何とか独立して遣っているのでは家内には感謝している。と言う。此の親にしてこの子ありと言うべきだろう。

貴方は地方にあっても歴史と伝統ある大学の名を取り戻されました。同窓会長としても日銀総裁を長崎に招請するなど校史に残る仕事をされました。この80年来本当にお世話様でした。ゆっくり富士の絵を描きながら体を休めて、この国の行方を見守ってください。改めて貴方の御功績と栄誉を讃える者であります。なおこの記事は御寄稿に当たり自分の来し方を赤裸々に書いたが何等かの参考になればと書いてありましたので念の為付け加えておきます。しかし紙面の都合と私の筆力では貴方の気持ちの割にも満たないだろうことをお許し下さい。

追記（備考）

昭和28年卒の私どもの頃は、大村教養部は1年生の時点で、2年生になれば教養と並行して専門科目の履修となっていた。しかし薬学部の復興工事が未完だったので、経済学部の校舎の一部で教養科目と専門科目の講義が並列で行われた。その時、佐賀西高での親友が経専と経済学部へ居たので、彼らの世話で経済学部の自きょう寮に入った。そこで寮生間の交友、知己の輪が広がった。また彼等の勧めで経済学部の専門課程の講義に潜り聴講することが出来たので多くの名講義を拝聴することが出来たのは幸いだった。その後3年生の時に昭和町の薬学部の校舎に本格移転した。

2014年第27回三朋会（昭和30年卒）だより

郷野 美智子（昭30）

例年秋（10月頃）に開くクラス会を今年は長崎国体で予定されている為に、春酩の4月8日～10日に稲佐山観光ホテルで開催した。この数年、金比羅山麓から長崎の夜景を鑑賞していたが、今年は稲佐山の方から眺めたいとの要望もあり、鶴の港を眼下にした眺望もまた素晴らしかった。残念ながら桜は過ぎたばかりだったが、萌え出た若葉は目に眩しく映り、山道の両側には八重桜が咲き誇っていた。

僅か半年前に「来年また会いましょう。」と別れを惜しんだ面々13名が一堂に会することが出来たのは何より嬉しいことであった。

皆八十路 集う笑顔に 風ひかる

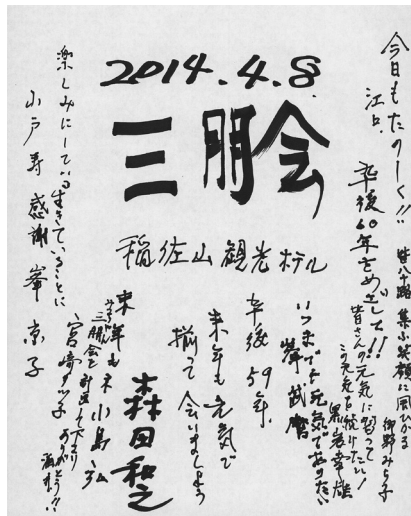
午後6時、写真撮影後宴に入るに先立ち、この1年間に他界されたお二人、副島様、築瀬様を含めて18名の方々のご冥福を祈って黙祷を捧げた。

クラス会とは不思議なものである。宴が始まるや、忽ちタイムスリップして、皆紅顔の美少年、美少女（？）に戻り、若かりし頃の話、昨今問題の高齢者を狙った詐欺事件、時事問題など賑やかに語り合った。

午後8時、ホテルのバスで女神大橋に案内して頂いた。途中、この懐かしい長崎の街の移りゆく様子や、港からの素晴らしい夜景を堪能することが出来た。橋を渡り大浜、飽の浦トンネルを抜けて稲佐山観光ホテルに戻った。この間、一部始終をDVDに収録して皆にくだ

さった山本さんに感謝申し上げます。

2日目は10名で長崎ペンギン水族館を訪れた。何十年振りだろう。ペンギン達は正装で(?) 整列して出迎え



てくれた。皆、幼子の様に大はしゃぎした。

第2夜の宴は稲佐山山頂の展望レストランで開いた。まだ明るい長崎の街にやがてひとつ、ふたつと灯が点され、世界新三大夜景の一つとも称される素晴らしい景観に移り行き、次々と運ばれてくるご馳走に彩を添えた。展望台に昇って夜景を堪能した。

稲佐山展望館の春の宴

こんげん夜景えっとなかばい！

来年は卒業後60周年にあたる。還暦である。現在病氣療養中の方、介護に専念されている方、一日も早くご快復される様にと祈っています。また、みんな元気に笑顔でお会いしましょう。お互いにくれぐれも健康に気を付けて！！

出席者（順不同、敬称略）

黒岩幸雄、江口 暉、山本 勲、小島 弘、森田和之、宮崎タツ子、峯 京子、山戸 寿、馬詰久子、峯 武磨、酒井裕子、黒岩映子、郷野美智子 以上13名



三朋会 平成26年4月8日 於 稲佐山観光ホテル

昭和37年卒（大薬10回）クラス会報告

青木 昇（昭37）

昭和37年（1962）卒クラス会は今年は長崎市内で開催しました。身内に病人を抱えて遠出が出来ない私ですが、長崎市内での開催ということで参加することが出来ました。

5月18日（日）午後2時 長崎駅前集合

宿泊会場に赴く前に薬学部関連の新旧施設を訪ねてみようという趣旨で、予約したマイクロバスに乗り込み、最初に「グビロが丘」を訪ねました。話などでは聞いたことはあるが訪れたことはないという人がほとんどでした。医学部正門から入り高さ数十メートルの坂道を老骨に鞭打って登り、原爆死された先達の忠霊碑にお参りして防空壕・射撃場跡を巡りました。現在薬学部校歌となっている（？）旧長崎薬専寮歌の2番に「浦陵ヶ丘」とあるのが此処のことだろうと語り合いました。

その足で昨年原爆遺跡として国に指定された旧「長崎医科大学」の傾いた門柱を見学、その反対側には「長崎薬学専門学校」の門柱が現存しています。

そのあとノーベル賞受賞の下村 脩先生の記念館が設置されている長薬同窓会の柏葉会館（現薬学部隣り）を見学、我々の学生時代分析教室の実験助手をされていた下村先生の往時を偲びました。それから我々が学んだ昭和町の旧薬学部を訪ねましたが、現在は教育学部附属小学校となっており当時の面影はほとんど残っていません。

そのあとマイクロバス運転手のサービスで女神大橋に向い、長崎港を一周して稲佐山観光ホテルに到着、少し遅くなったので風呂も浴びずに宴会へ。久し振りに参加した人もあり現在&過去の話で盛り上がり、午後8時に予定していた稲佐山山頂からの世界新三大夜景観光は取りやめにしました。その後は8階スカイラウンジへ移動してカラオケに興じました。

5月19日（月）午前8時15分 ホテル発

朝食後、ホテルの送迎バスで大波止へ向い「ブラックダイヤモンド」号で端島（軍艦島）へ。当日夜明け前にはひと雨あったのですが日の出後は奇跡的に晴天に恵まれ世界遺産候補の端島に無事上陸観光が出来ました。1974年閉山後無人島となった端島は私も初めての大陸でしたが、廃墟と化した姿は壮絶でその歴史を考えれば物悲しい気持ちになりました。

帰港したあとは史跡料亭「花月」の大広間で昼食会、女将の案内で坂本竜馬や岩崎弥太郎ら明治維新前後のヒーローたちを偲びました。

昼食後午後2時過ぎ現地で解散。来年は関東地区で開催することを決めてそれぞれ帰途に向いました。

今年のクラス会は吉田研次幹事長が参加者が恐縮するほどの豊富な資料を準備され、かつ綿密な行動計画のもとスムーズに進行が出来ました。

最後に長薬同窓会本部に要望があります。それはグビロが丘には旧薬専の存在を示す標識など何ひとつなく、また昭和町校舎跡にも旧師範学校跡の石碑はあっても薬学部が存在した痕跡は何もありません。往時を知る人々も段々と少なくなっている現在、なんらかの標識を設置出来ないのでしょうか。是非ご検討をお願いして本稿を閉じます。

今回の参加者は次の通り

男性：青木、小野、平、渡久地、中西、野村、早崎、
林、馬場、福島、松田、吉田
女性：岩永（大井）、有村（大渡）、中山（貞松）、
寺尾（秀坂） 以上16名



平成26年5月18日 於 稲佐山観光ホテル

昭和41年卒クラス会を開催

伊豫屋 偉夫（昭41）

近年、昭和41年卒のクラス会は九州での開催が続いたので、今年は、久しぶりに関東で開催しようと思い、中村政記君に連絡したところ快く引き受けてくれて、日時、場所を関東在住者で検討してもらい、連絡があり次第会員に通知をすることにしました。

今回は、東京駅がリニューアルされ、東京スカイツリーがお目見えしたので、東京駅の近くでクラス会を開催し、翌日は「はとバス」で東京スカイツリーに登り、浅草を巡り、隅田川を下り、最後に東京駅を見て廻ることになりました。日時は、まだ勤務している会員もいるようですが、休日を取ってもらい、会場が取れやすく、東京スカイツリーが混雑しない月、火とし、5月12日、13日にしました。

当日、長崎空港からはじめてのシニア割引を利用して東京羽田に着いたときは生憎の雨でしたが、会場の皇居のお堀が眺められる大手町のKKRホテル東京に着いた時には小降りになり、明日は曇りと聞いてホッとしました。

懇親会会場に行くと、関東在住者が設営をしてくれて、受付で待っていてくれました。今回は、関東在住者8名、長崎県在住者6名、広島1名、宮古島1名、計16名の参加がありました。前回会った人、久しぶりに会う人、和気あいあいと話に夢中になり、どんな料理を食べたのか思い出せない状態になりました。また、小篠輝章君が西新橋の長崎大学東京事務所からプロジェクターを借りてきて、卒業アルバムから取り出した写真を次々と映し出して、学生時代にタイムスリップさせてもらいました。



翌日は東京駅前の「はとバス」乗り場に集合しました。タクシーのトランクに荷物を置き忘れた方がいましたが荷物も届き、全員無事「はとバス」に乗り込み、東京スカイツリー初登頂に挑戦しました。曇り空でしたが、スカイツリーからの眺めはまずまずで、平日でスムーズに見て廻れました。その後、浅草に行き雷門、仲見世商店街、宝蔵門、浅草寺を見て廻り、浅草から隅田川下りをして、船の中から勝鬃橋とスカイツリーを同時に眺め、感動しながら東京駅に戻りました。東京駅では、復元された丸の内南口のドームの鷲のレリーフや8つの干支の彫刻などを見たのち、今回のクラス会での再会を楽しみに解散しました。関東在住の皆さん、特に中村政記君には最初から最後まで大変お世話になりました。ありがとうございました。

再来年は、卒業50周年クラス会を長崎で開催しますので、健康管理に努め、思い出の長崎でお会いしましょう。



平成26年5月13日 於 浅草寺

長崎大学薬学部S42年卒組同期会報告

高松 薫（昭42）

昨年、山口で開催された同期会の終了時に竹尾さんから「来年は、大河ドラマの舞台となる中津でやろう。幹事は俺と丹羽（当日、本人は欠席していた）でやるから大丈夫ちゃ」と言っていたことから皆が賛同し、中津に決まった。しかし、本人は、それから1週間後に脳梗塞で倒れてしまった。結局、訳も分からず、中津市出身でもある丹羽さん一人が世話役を引き受けることになった。

日程は、初秋の土曜日ということから10月11日となった。ところが、同期会5日前頃になって、今世紀最大のスーパー台風19号がフィリピンで発生した。お陰で、日帰りも検討し、幹事は予約していたホテル「ルートイン」をキャンセルするやら大騒動となった。やむなく、当日は、早く到着した連中を自分の車（三菱アウトランダー）で中津の名所を案内したり、これまでの幹事にない苦労があった。

会は予定どおり6時に開始された。6時近くになって、出席予定者は、全員集合した。いつも出席し、先導役を果たしていた井上は欠席した。関西代表の梶野は来なかったが、代わりに松永詔太郎が大阪羽曳野市より元気な姿をみせた。関西人は責任感があるねえ。詔太郎は、いくら変装しても、直ぐ見分けのつく風貌でやってきた。医系作家となった香取の姿はなかった。女性陣は、思い出のシクラメンやポインセチアを期待したが、失敗

し、ドライフラワーになったのだろうか、心肺停止状態なのだろうか。春先まで待てば、生き返るかも知れない。今年になって、高崎山のボスザルが雄から雌に交替したというので、健在だろう。何せ、これから女性の時代なのだから。

会の冒頭、井上から送られて来た近況報告を幹事が読み上げて、「今年も残念ながら、井上さんは、闘病中で、奥様の介護もあって出席できない」との報告がなされた。一瞬、むなしい雰囲気が漂った。

続いて各自、近況報告をした。脳梗塞組の高松と竹尾はそれなりの恰好で会場に姿を見せた。高松は、みじめさを残していたが、杖1本で会場に辿り着いた。竹尾は予想外に元気で、「皆に心配させました。お陰で励ましの電話ももらいましたが、俺は大丈夫ちゃ」と挨拶した。昔の衛生化学教室の、竹尾・高松・高木・武智・徳永、全員Tで始まる5名であるが、脳梗塞が2名もいる。しかし、その2名は出席した。一番の遠路では、埼玉の坂戸市から近藤（谷）先生がニコニコ顔でやってきた。城西大学で、胃潰瘍と胃粘液の関係を研究していたが、今年の世界学会でロシアの女性とともにオーストリアで論文発表するので、オーストリアに行ってくると言っていた。ああ、恐ロシア。同期会に初めて顔を出したのは、名実ともに公務員スタイルの奥田 正。街角で偶然に会っても分かる感じであった。奥村は、名門「東舞鶴高



平成26年10月11日 於 中津市

上段：左から 丹羽、田浦、村上、奥村、神代、奥田、神田
下段：左から 近藤（谷）、松永、竹尾、高松 計：11名

校」で、渡辺三明や高宮 博らと友であったので、彼らの魂も背負い、前立腺がどうのこうのと言いながら京都から出席した。何事にも執着しないことを自負していた神代は、現在、ドラッグチェーン薬局を経営している。現在、販路拡大で全国を飛び回って多忙とのことであった。神田も、仕事で忙しいらしいが、少し太めになり、堂々としていた。出席者を喜ばせたのは、教養部から学部に移った時に姿をくらました村上 剛と田浦 洋が「隠れ忍者、只今参上」とばかりに姿を現した。村上は、昨年も広島にいるところを発見され、皆を驚かせたが、田浦は、エーザイの営業部で働き、髪の毛を少なくし変装して名古屋近辺に隠れていたところを発見された。近頃、ギターを抱え、オジサン・グループで団地ガイ田浦で鳴らしているようだ。

8時を回って、高松は、台風を恐れて、日帰りで退席

した。続いて竹野も日帰りした。残りで、次の同期会をどこで開催するか、参加する体力も気力もなくなったので、来年を最後の同期会にしよう。それは寂しくなるね。こんな面白い同期会を一度も出席したことなく、終わったのでは、雪解けの御嶽山同然となる。長崎新幹線ができた時にもう一度やろう、などなど9時半頃まで議論が続けられた。結局、開催場所は、誰にも公平で交通の便のよい京都になった。最後の幹事は、責任感のある奥村・梶野・竹尾・谷の4名にお願いし、中津同期会を終了した。翌日は、台風など来てみないと怖さの分からない連中のみ、耶馬溪に行った。神田はなんだかんだ言って、一人で市内観光に出かけた。後の8人は耶馬溪に行き、ソバを食べた。(文中敬称略)。

文責：萩のけんか坊こと高松 薫

貞木 浩君の思い出と共に来た道を振り返って

木原 隆英(院昭43)

貞木 浩君(院昭43)の訃報を知ったのは、会報第53号であった。突然の悲報に接し誠に痛惜の念に堪えません。彼の思い出と共に、長薬から歩んだ道を継時的に振り返ってみました。

長薬との最初の出会いは、恩師福井義雄先生(昭22)、第一薬科大学、生薬学教室教授でした。本学の大学院に導いて頂きました。1966年4月9日、当時の昭和町校舎で、修士課程2期生の入院式に出席、同期9人の初顔合わせでした。私は生薬学教室で、貞木君は薬品製造化学教室でした。5月、加茂米一(院昭42)先輩と安い飲み屋に入ると、貞木君と西河(山口)昌昭(院昭42)先輩が先客でおり、4人で楽しく過ごしました。この時が貞木君との出会いでした。6月には、同窓会事務局から名簿発送のお手伝いのお礼にビールを頂き、色々な教室の人が集まり、大いに盛り上がりました。貞木君は面白い奴が入ってきたと喜んでいました。その時の彼の笑顔が思い出されます。それからは、意気投合し飲んだり話し込んだりした。彼は鋭い目をして意外に筋のある人間であったが、シャイで話すと面白く、飲むと何時も声を出して笑っていた。また、学生や学部祭の高校生の質問に、腕を組みながら真剣に考え込み、懸命に答えていた姿が印象的であった。

'67年4月、私は長崎造船大学(現:長崎総合科学大学)附属高校2年生の化学を担当する。更に彼と親密になっていった。家庭的な安兵衛鮎に彼とよく通うようになった。家族と親しくなり、集会所で若大将を胴上げしたこと、妹さんと一緒にボーリングを楽しんだことが懐かしい。貞木君のお母さんとは長崎に何回かこれ、賑やか

に、楽しく過ごしました。その後も戸畑の実家を訪問する度に喜んでくれました。'68年3月、無事に修士課程を修了。

'68年4月、貞木君は名古屋の製薬会社に入社。私は、信州松本のキッセイ薬品へ、天然物化学から生物系の毒性研究(現安全性研究)に配属。9月、彼が信州に来訪、松本城、信州そば、会社を案内、居酒屋でお互いの将来を語り合ったことが懐かしく思い出される。'69年1月、京都大医学部に催奇形性試験の研修のため内地留学。東大入試中止の後で学園紛争が京大に飛び火し、巻き込まれる。時計台の頂上にテント小屋が作られ、機動隊と学生の小競り合いは異様な雰囲気であった。7月、彼は京都に来訪、ゆっくりとスナックで飲み楽しく語り合った。彼は名古屋の会社を辞め、小倉の病院に勤務しており、就職で悩んでいた様子であったが、喜んでくれた。'70年3月、大阪万博が開催される。'70年5月、研修を終え松本に帰社。その頃、貞木君は富山化学の研究所に就職。'70年8月、結婚前の家内と富山の彼を訪ねて行き、歓迎を受ける。翌年5月、長薬後輩で新入社員の木下幸彦君(院昭46)を入れ4人で松本の馴染みの居酒屋「こゆき」で長薬の昔話など楽しい時間を過ごした。'72年1月、福井義雄先生に頼まれ、フナイ薬品に入社。研究生として再び京大医学部に内地留学。2月、京都吉田山の下宿先で、札幌冬季五輪、あさま山荘事件でTVに釘付けになる。先天異常の研究と院生の研究や学生実習のお手伝いをする。5月、貞木君が京大に訪ねて来てくれた。京大のキャンパスを案内し、研究者の喜びなど楽しく語り合う。彼も1年前より元気にやっているようだった。

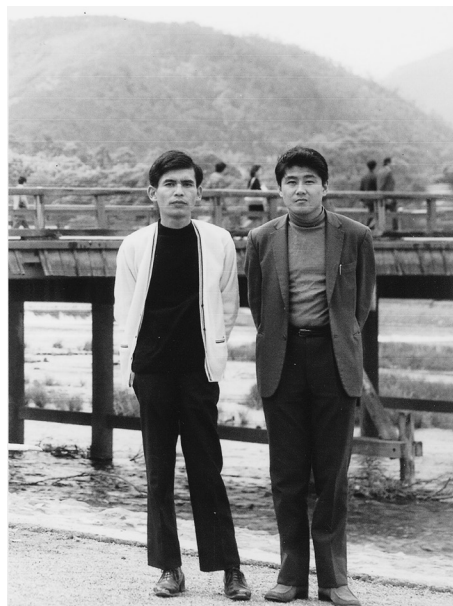
京都を案内し、渡月橋をバックに記念写真を撮る（写真）。'73年2月、東京主張の際、東京勤務の彼と賑やかに飲み語り合い、お互いに元気で頑張ろうと励まし合う。同年5月、帰社後、私は結婚する。彼に披露宴の司会を頼み、翌年6月、彼の結婚披露宴の司会を私が引き受ける。お互いに司会は下手だと認め合った。'76年11月、フナイ薬品退社、失業。三度京大にお世話になる。'78年10月、近畿大学医学部に就職、教育（人体解剖学、発生学）、研究（先天異常学、生殖発生毒性学）に勤める。'86年11月、久しぶりに彼から電話があった。「おい、木原、俺はもらったよ」と。東京大学より薬学博士の学位を授与される。その内容が薬学雑誌に発表されていた。私も刺激を受け、5年後、博士（医学）を授与され、ほっとする。

'93年3月、大阪の日本薬学会で久しぶりに再会を果たす。娘さんが6歳になり4月から小学生になると嬉しそうに話していた。'03年の賀状では昨年退職し、主夫業をやっていますと、'05年の賀状では娘もやっと大学生ですと。その後、彼との音信が途絶える。私は、'12年3月、定年退職後、現在は専門学校（非常勤講師、生理学、解剖学）に勤務。最近、妹さんから、兄は博多の姉のところで療養していましたが、5年前の2月に他界しましたと知らされる。親友を失ったことは誠に寂しく残念でな

りません。

貞木 浩君のご冥福を心からお祈り申し上げます。

合掌。



昭和47年5月1日 於 京都渡月橋、左が貞木君

昭和50年卒業同窓会（北の大地より）

石田 照彦（昭50）

平成24年9月北九州市小倉で開催した同窓会の折、次回開催を北海道でという意見に押され幹事を引き受けることになりました。北海道在住は同期でただ一人。他の候補地もなく引き受けざるを得ない状況でした。ならば北海道の一番いい季節にと考え、平成26年9月20日（土）札幌市での開催案とし早速準備に取り掛かりました。

まず宿泊ホテルと懇親会会場の選定。トップシーズンの札幌は如何にホテルが多いとはいえ人数分の部屋を確保するのは大変です。早い時期から準備に取り掛かり、宿泊は30名前後の参加を想定し交通の便がよく清潔で手ごろなホテルを探し、懇親会会場は札幌の夜景が堪能できる札幌随一の高層ホテル、J Rタワーホテル日航札幌の最上階を確保することが出来ました。

最終的に男性13名、女性14名、計27名の参加となり当日は全国各地より札幌に参集しました。山田（旧姓川神）さん、徳永（有永）さん、後藤（浜田）さん、寺菌（浅井）さんの女性4人組は2日前より富良野・美瑛を回り、倉田君、橋間君（高瀬さん）、白石君、福田君、長田君、黒田君（溝上さん）はご夫妻で参加。また休みを利用して自転車で行った一端として参加した梶村君、

北海道は初めてという方々等々。

当日はにわか雨がかったものの天気は良く、会場のホテルからは札幌の澄んだ夜景がすばらしい眺めでした。札幌での開催を祝うかのように近郊のモエレ沼公園（イサム・ノグチ（夫人は李香蘭）デザイン）で開催された花火大会も窓越しに見られ皆から歓声が上がりました。

会は校歌斉唱の後、前回幹事増田君の乾杯の音頭で始まり、学生当時のこと、子供・孫のこと、仕事・健康・介護のことなど卒後39年間の出来事を面白おかしく、また涙もありの話題は尽きる事無く歓談は続けました。

また思わぬサプライズもありました。たまたま旅行で来道し、このホテルに宿泊していた方が催事の看板「長崎大学薬学部昭和50年卒業同窓会」を見てホテルの方に手紙を託していました。何と昭和57年卒業の後輩の方で懐かしい母校の名前を目にして・・・との事。これまた拍手喝采の盛り上がり！ 長薬は何処でも何時でも繋がっていると感じた出来事でした。

翌日は朝一番に札幌中央卸売市場場外市場で留守宅に送るお土産の調達。北海道経済にとって大いにプラスとなりました。その後連泊の15名で小学生の社会見学よろ

しく北海道内で明治・大正・昭和初期に実際に使われていた鯨番屋、駅舎、屯田兵舎などの建築物を移築展示した北海道開拓の村、大通公園で焼きトウモロコシを食べながら開催中の食の祭典オータムフェストをひやかし、札幌時計台、サッポロビール博物館などをワイワイガヤガヤとかしましく見て回り、メはサッポロビール園のジンギスカンとビールで心行くまで札幌を満喫した思い出深い同窓会となったように感じました。

さて、次回同窓会は東京在住の梶村君が積極的に幹事を引き受けてくれました。2年後は今回以上に多くの方が参加いただけるよう楽しい企画を期待しています。最後になりましたが、本会の準備に際しご協力を頂きました同窓会事務局にお礼申し上げます。

参加者：順不同・敬称略（旧姓） 山田（川神）貞子・徳永（有永）由美子・後藤（浜田）とみ子・寺蘭（浅井）直子・倉田啓二・角 邦男・松尾（用田）登喜子・田邊（秋川）早百合・松本（黒崎）美智子・白石武利・橋間康明・橋間（高瀬）真理子・三島（坪根）みずほ・浜田美智子・栗原（吉武）早苗・上ノ段 茂・福田博美・萩野（萱島）洋子・増田和久・梶村 博・緒方信明・長田和敏・黒田正幸・黒田（溝上）百合・藤竿伊知郎・山田（松尾）三和子・石田照彦



平成26年9月20日 於 JRタワーホテル日航札幌

昭和53年卒業生同窓会報告

町田 毅（昭53）

平成25年11月3日（日）に、長崎港近くの水辺の公園レストランで昭和53年卒業生同窓会を開催しました。

私たちの学年では5年ごとに同窓会を開くことを何となく取り決めていますが、今回の開催に当たり、幹事役を務めた森田（分藤）さん、上野（出雲）さん、佐々木君、藤井君、大園（吉田）さん、そして小生で事前に相談し、より多くの人たちが集まることができ、時間もゆっくりとれるようにと3連休の中日になる日にちを選定して開催の運びになりました。このような幹事の思惑を察してもらい、遠くは関東から39名（1名は2次会から）の同級生が集まりました。幹事の中でも、クラスごとに案内作成や出欠確認など、こまめに連絡と調整を引き受けてくれた森田さん、上野さん、そして大園さんには改めて感謝する次第です。

当日は午後からの開催でしたが、会場に到着し懐かしい顔を見つけた途端にあちこちで談笑の輪ができ、その瞬間からみんなの生き生きした表情も歓声も姿（これは言い過ぎか？）もが35年前にタイムスリップしていました。

あいにく小雨模様の天気でしたが、みんなの勢いに負け、天も一瞬ひるんだすきに屋外で無事に記念撮影もできました。

会は藤井君の迷司会（失礼！名司会）で進行了しました。冒頭にこの5年間に惜しくも亡くなった佐々野（加藤）さんと中牟田君に哀悼の意を捧げ黙とうを行ない、引き続き小生の挨拶ののちに、テーブルごとの代表による一斉の乾杯発声で歓談がスタートしました。席順はあえてくじ引きにしたのですが、どのテーブルでも途切れることの無い話し声と笑顔を絶やさず聞き入る顔々に、卓上を飾る食事にもなかなか手がつかない状況でした。

一段落した時間に近況報告が始まりました。マイクを片手に一人一人が仕事のこと、家庭のこと、孫自慢（？）な

ど、この35年間に過ごしてきたそれぞれの人生を振り返って笑顔を交えながら話し、また、聞き手側も相槌を打ったり時にチャチャを入れたり、片方の耳では報告を聞きながら、もう片方の耳ではテーブルでの話をしたり聞いたり、と懐かしく楽しいひと時を過ごしていました。

時間があっという間に過ぎるのも当然で、一人3分話してもみんなの近況報告に約2時間かかってしまいます。午後2時に始まった同窓会も笑顔と歓声のうちに夕方を迎えました。とりあえず1次会はこれで終了です。当然ながらこれで終わる訳にはいきません。ほぼ全員が引き続き2次会に参加します。小雨模様だった天気も夕方には上がり、とりあえずの酔い醒ましを兼ね、多くが久しぶりに訪れた夕暮れの長崎を散策しながら2次会会場のホテルニュー長崎まで向かいました。

ラウンジバーでは今までの興奮と喧騒も一段落し、シックな雰囲気の中で間もなく還暦を迎えようとする歳に似合う語らいのひと時を過ごしました（とは言いまでも、途中でベチョ（西村（中野）さん）と山崎君のピンクレディ復活もありましたが…）。また、仕事で1次会に参加できなかった浦田さんも駆けつけ、出席できなかった時間を取り取り戻すように話しまくっていました。

同窓会という響きを聞くだけで青春時代をともに過ごした仲間の顔とその思い出が一瞬にしてよみがえってきます。今回の同窓会に万難を排して参加してくれた皆さんに感謝しつつ、5年後の次回開催の時は皆が60歳を超え、ほとんどが仕事も家庭も一段落ついている頃と思います。今回残念ながら参加できなかった皆さんもぜひスケジュールを調整して参加いただき、もっともっと盛大な同窓会にしましょう。その為にもくれぐれも健康に気を付けて過ごしましょう（かくいう小生も運動不足と生活習慣病で要生活改善対象の最たるもののなのですが…）。

次回同窓会は平成30年に、また長崎で開催予定です！



平成25年11月3日 於 水辺の公園レストラン

近況報告

七種 均（昭56）

同窓会副会長を仰せつかっています、昭和56年卒、昭和58年大学院修了の七種です。私は大学院修了後は、当時大浦に在った電電公社所管の長崎通信病院に就職し、途中公社の民営化等によりNTT西日本長崎病院と病院名が変わることもありましたが、30年間同じ病院で病院薬剤師をさせていただきました。今年（平成26年）3月末をもってNTT長崎病院が近隣の民間病院に売却されることになり、NTTを退職することになりましたので、これを機会に違う病院で、また一から病院薬剤師としての生活を開始したところです。

今病院薬剤師の業務は外来調剤を院外処方へ切り替え、病棟に軸足を移して多職種とのチーム医療で患者様を診る臨床業務が主流となってきました。NTT長崎病院でのこれまでの約20年間も、そのシステム構築に努力してまいりました。特にこの10年は一人の薬剤師を病棟に常駐させるため、私のほうは薬剤部全体のマネジメントを手がけておりました。病院の売却時に、これまでの延長線上に身を置いて慣れ親しんだ業務に甘んじるのかなど選択肢はいくつかありましたが、結局今は十善会病院という脳神経外科を中心にした社会福祉法人の脳神経外科病棟を担当し、電子カルテにとらめっこする毎日をおくっております。



またこの10年間は、日本病院薬剤師会の九州山口ブロック代表委員として、年間2回のセミナーや約2年に一度「病院薬剤師業務実例集」を出版したり、また昨年度までの4年間は日本薬剤師会の部会幹事として「薬剤師の将来ビジョン」の策定に関わらせていただきました。このような事ができたのもいろいろな方々のご指導のおかげと感謝しているところです。

さて同窓会の副会長を仰せつかってから、「グビロが丘」の防空壕跡地の清掃や諫早にある小野島校舎跡記念碑の清掃などに参加して、あらためてわが薬学部歴史に感銘を覚えたいです。今年は残念ながら台風で「グビロが丘」の防空壕跡地の清掃は中止となりましたが、11月には諫早にある小野島校舎跡記念碑の清掃が行われました。

特に「グビロが丘」の防空壕跡地の清掃に参加するとき、長崎大学病院から医学部へと向かう小路に通称「医専の門」と「薬専の門」という二つの門があり、被爆して台座からずれた「医専の門」は長崎市の被爆遺構としても紹介されていますが、凛として立つ二つの門からも先輩方の学問への熱い想いを感じます。同窓会の清掃活動へ皆さんにも参加いただければと思います。当然参加費は無料です、ぜひ来年一緒にどうでしょうか？



久しぶりに夫婦で旅行に出かけてきました

山口 正広（昭56）

同級生の皆さん、元気でお過ごしでしょうか？昭和56年（1981年）に卒業して早いもので33年の月日が経ち、親の介護や自分の健康が気になる年齢となってきました。昨年は、同級生の赤木君がガンで亡くなり、より一層健康に気を使うようになられた方も多いと思います。

そう言う私も、赤木君が亡くなったことが一つの契機となり、「人生はいつ終焉を迎えるのかわからない。元気

なうちに、可能な限り、いろいろなことに取り組んでみよう」と思うようになってきた次第です。

そして、その第1弾として、リフレッシュ休暇を利用し、今年8月27日（水）から29日（金）までの2泊3日で、久しぶりに夫婦で京都へ旅行に行ってきました。

我が家には、84歳になる認知症が徐々に進んでいる父が居て、毎日デイサービスに通っており、なかなか夫婦

二人一緒に家を空けることができない状況にあります
が、夏休み期間中だと大学生の子供たちも帰ってくるだ
ろうと見込み、私と家内の仕事の予定を考慮して、お盆
明けの8月下旬に旅行へ行くことにしました。

行く場所については、「高校の修学旅行以来行ったこ
とがなく、世界遺産に登録されている寺社仏閣等が多く
点在する京都が良い」という家内の要望に応じて京都に
行くこととし、今年の1月か2月頃から、旅行パックの
パンフレットを集めたり、旅行ガイドブックを購入したり
、京都旅行の準備を進めてきました。行ってみたい所
をリストアップしたり、買いたいお土産をリストアップ
したりと、準備の段階から結構楽しい時間を過ごすこと
ができました。

そして、準備OK。いざ！京都旅行に出発——。

1日目の8月27日（水）は、家の近くの駅を6時9分
に出発する列車で諫早駅に移動。6時22分に諫早駅を出
発する特急列車で博多駅へ。その後、8時29分博多駅発
の新幹線に乗り換え、11時15分に京都駅に到着。予約し
ていた京都駅八条口近くのホテルに荷物を置き、午後か
ら、予約していたタクシーを使って、上賀茂神社（世界
遺産）、下鴨神社（世界遺産）、銀閣寺（世界遺産）を回
り、その後、高台寺、知恩院三門（国宝）、祇園を散策し
た後、ホテルに戻って夕食。



銀閣寺

2日目の8月28日（木）は、京都バス・地下鉄一日乗
車券を使って、北野天満宮、金閣寺（世界遺産）、龍安寺
（世界遺産）、仁和寺（世界遺産）を回った後、昼食を済
ませ、京福電気鉄道（北野線・嵐山本線）を使って嵐山
に移動、天龍寺（世界遺産）、竹林の道を散策した後、バ
スと地下鉄を乗り継いで河原町周辺に戻りショッピング
、その後ホテルに戻って夕食。

3日目の8月29日（金）は、京都バス一日乗車券を使っ
て、午前中、西本願寺（世界遺産）、二条城（世界遺産）
を散策、京都駅に戻り昼食を済ませた後、お土産を買い、
13時52分京都駅発の新幹線で博多駅へ、16時55分博多
駅発の特急列車に乗り換え諫早駅に移動、諫早駅で18時42



仁和寺

分発肥前山口行きの普通電車に乗り換え、家の近くの駅
で下車、19時頃自宅に到着。

京都は盆地であり、京都の夏の暑さを覚悟して行った
のですが、今年の夏は冷夏であったこともあり、そう暑
くもなく、雨にもほとんど降られず、大変充実した京都
旅行でした。

朝一番の列車で長崎を出発すると昼前には京都に到着
し、時間距離的には意外と近い場所にあるのだなと思い
ましたし、龍安寺など、訪れた多くの寺社には“もみ
じ”が沢山植えられ、青々とした葉がとてもきれいでは
したし、秋の紅葉のシーズンには、さぞかし美しいであ
ろうと思った次第です。京都は、日本を代表する観光地
だけあって、観光地を回るバス路線等の交通網が整備さ
れ、公共交通機関を利用して効率よく観光地を巡ること
ができる場所であり、紅く色付いた“もみじ”を見物
するため、秋の紅葉シーズンにふらっと京都に出かける
のもいいのかなと思った次第です。

旅行から帰日数日して、家内から「次はどこに行こう
か？金沢なんかどう。金沢のガイドブックを買ってき
て。」という話があり、早速、金沢の旅行ガイドブックを
買って来るなど、次の旅行企画を考えているところ
です。限られた人生、元気なうちにいろんなところに行
てみたいと思っています。

ちなみに、定年退職まで残すところ片手の4年余りと
なりましたが、退職時には寝台特急（カシオペアまたは
北斗星）で北海道に行こうという計画を企てており、家
内はせっせと積み立てをしているところです。私として
は、できれば、スイスのユングフラウ鉄道に乗り、終着
駅のユングフラウヨッホにも行ってみたいなあ～と、
思っているところです。実現できるかなあ…？

取り留めのない夫婦の旅行記を書いてしまいました
が、最後に、再来年（2016年）は卒業35周年の同窓会を
計画したいと考えており、多くの方に参加いただけるよ
う、幹事の皆さんと一緒に楽しい企画を考えたい
と思っています。楽しみに待っていてください。

マラニックやってます。

高良 真也（昭57）

まだ日の出前の水辺の森公園をスタートし、旭大橋を渡る。「初めてでペースわからないんですけど」「みんな速いですね」などと話しながら最後尾で飽の浦へ向かう。2013年5月5日こうして、私のマラニックは始まりました。女神大橋を渡り終え、最初のエイド（飲食物を提供してくれる）に着く頃には、空は普段の明るさを取り戻していました。鍋冠山から茂木の漁港まで、ただひたすら下っていきます。日見公園を過ぎてやっと道半ば、スタートから伴走していたペアについていけなくなりました。飯盛峠の上り下りで疲れた足を奮い立たせながら、ジャガイモ畑の中を5月の日差しを浴びながら進みました。エイド食とボランティアスタッフの「頑張ってる」の声が後押ししてくれます。どこまでも続いているのではないかと錯覚する雲仙鉄道廃路海岸を、右手からの波音を聞きながら黙々と前進しました。最後のエイドを出発し、富津までくればあと5km。「橘湾岸スーパーマラニック」ののぼりと拍手に迎えられ、小浜の温泉街の先の南本町公民館にゴールしたのは、制限時間の7分前、16時53分。11時間53分80kmの旅でした。

マラニックとはマラソンとピクニックを合わせた造語らしく、私は、休み休みで良いからとにかく自分の足で移動しよう、というものと理解しています。80kmを12時間だと、1時間当たり6.7kmなので、早歩きだけでもいけそうですが、エイドに寄らず12時間歩きっぱなしというわけにはいかないで、どこかで走らなければなりません。でも早く走る必要は全く無いのです。このあたりの時間設定は、他のマラニックでもあまり変わらない様です。「早く走る必要は全く無い」これがマラニックの魅力のひとつです。ですから60歳代はゴロゴロ、私の少ない経験の中でも70歳代のランナーもいらっしゃいます。速さ以外でマラソンとの重要な違いは、参加者は「歩行者」という点です。一歩行者としてできる限り歩道を行います。信号を守りながら、自分の身は自分で守りながら、地図と時々道路上に出現する誘導のための手書きの矢印を頼りに進んでいきます。

昨年の暮れからは、「駄マラニック」にもお世話になっています。12月佐世保フル、1月松浦フル、2月武雄嬉野フル、3月陶芸の里めぐり65km、4月九十九島99km、5月博多唐津106kmと参加しました。「走り過ぎ」という家族の反対を押し切って参加した5月は、道半ば唐津城53kmでギブアップしましたが、半年間遊ばせてもらいました。「駄マラニック」は、全くの個人での運営なので、10km毎のエイドは基本無人です。主催者は、受付でゼッ

ケンを兼ねた手作り地図を手渡し、スタート地点でランナーを見送った後、先回りして無人エイドを設置し、ゴール地点でランナーを出迎え完走状用の記念撮影をし、全ランナーがゴールした後、エイド等を片づけて回られます。もちろん迷子にならないための矢印引きも一人でされているようです。加えて夏場には事前にコース途中の草刈りもされています。これを今年は月2回のペースでされているのです。本当に頭が下がります。この「駄マラニック」の特徴は「遅いほうが偉い」「ワープ公認」ということです。最後にゴールしたランナーには、「最優秀ダマラー」の称号が与えられます。私はこれまで2度のブービーはありますが、残念ながら「最優秀ダマラー」にはなれていません。また途中、公共交通機関を使って移動しても構わないのです。もちろん完走状ももらえます。仕事の都合で早く帰らないといけないとか、飛行機の時間に間に合わないとか、もちろんもう走れないとかいう時は、胸を張って「ワープ」できるのです。地図には親切に、タクシー会社の電話番号まで載っています。ですから、走力に自信がない、長い距離は初めてなどという人も気兼ねなく参加できます。

どちらのマラニックも、ランナーの安全のため、比較的交通量の少ない道をコースとして採用しているのです。普段は通ることのないような道を使う点も新鮮です。「橘湾岸」の飯盛のジャガイモ畑と「陶芸の里めぐり駄マラニック」の大河内山にはちょっと感動しました。マラニックは、各地で開催されていて、参加者は10名程度から1000人を超えるものまで、距離も10km程度の短いものから200kmを超えるものまで様々です。興味を持たれた方は、ネットで検索してみられてはいかがでしょうか。きっと意外と身近に発見できると思います。

これが皆様の目につく頃には、天草マラソンと橘湾岸スーパーマラニック島原ステージ100km、駄マラニック佐世保フルを走りきっている予定です。



昭和55年入学&59年卒業の同窓会 in大阪

S55入学&S59卒業生同窓会幹事（鷲尾・春名・森藤）

本年7月20日に昭和55年入学、59年卒業の同窓会をホテルグランビア大阪で開催しました。

2年前、長崎での同窓会の二次会で、次回は大阪で開催することが決定しました。その時はまだ「2年もあるし、十分準備する時間はあるだろう・・・」と余裕でしたが、歳をとると月日が経つのは早いもので、何のアクションも起こさないうまま1年が過ぎていきました。今年に入り、ようやくお尻に火が着き、2月に幹事3名が集まり第1回準備委員会を開催しました。まずは、日程を決めなければということで、「センター試験の前は避けた方がいいかも・・・」「土曜日仕事の人も多いだろうし連休がいいかも・・・」とあれこれ考えた末、三連休の中日である7月20日（日）に決定しました。みなさんに開催日をお知らせした後で、同窓会開催日の5日前にUSJのハリーポッターがOPENすることがわかり、大阪は大勢の観光客でごったがえすことが予想されましたが、連絡してしまったのでしゃあないと、この日に開催することにしました。案の定、出席していただいた皆さんには交通機関、宿泊等でご不便をかけてしまったようです。

第2回準備委員会は「来月ね～」なんて言いながら1回目は終了しましたが、結果的に幹事3名が集まったのはこの1回だけで、ちゃんとした準備もできませんでしたが、「文句言う人はきつといないから大丈夫よ!」を合言葉に当日を迎えました。

当初は30名～35名の出席者を予想し、準備を進めていましたが、最終的に出席者は26名となりました。子どもの用事、親の介護、仕事などで出席できなかった方も多く、まだまだ色々忙しい年齢なんだということをつくづく感じました。当日はいつもの如く、会ったとたん学生に戻り、宴会場に入る前からワイワイガヤガヤとロビーはにぎやかで、笑声で

いっぱいになりました。今回、卒業以来初めて同窓会に参加した小宮君の乾杯の音頭で同窓会がスタートしました。ひとりずつ近況報告をしつつ、宴会場での3時間があっという間に終わってしまいました。その後同じホテルグランビア大阪内のパブレストランに移動し、二次会の開始です。ここでも、若者たちの宴会に負けず劣らずにぎやかに2時間があっという間に過ぎました。幹事が準備していたのはここまでで、すでにいい時間になっていたのここで終了かと思いきや、みんな帰るそぶりもなく・・・三次会に突入です。梅田のワインバーにはほぼ全員でなだれ込み、ここでもしゃべりまくり、まだまだと言う感じでしたが、残念ながらお店の閉店時間となり、やむなく解散ということになりました。

今回は大阪開催ということで、ご家族で来られてUSJを楽しまれた方（和田君、百味ビーンズのおみやげありがとうございました。）、前夜、甲子園球場でオールスターゲームを楽しまれた方など、同窓会以外でもそれぞれ楽しんでいただけたようで、大阪で開催して良かったとほっとしています。

次回の同窓会ですが、すったもんだの末、福岡県在住の女性陣に幹事をしていただき、2年後に九州のどこかで開催ということになりました。次に会う時はアラシックスに足を踏み込む年齢に突入します。みなさん公私ともに忙しい毎日ですが、2年後に元気で会うことを楽しみに、身体だけ（ではないですが）は大事に日々頑張りましょう。

最後になりましたが、今回同窓会の出欠確認の際に悲しいお知らせが届きました。藤田（旧姓：相原）徳子さんがお亡くなりになったとのことでした。同窓会の開催案内に対し、ご主人からご丁寧なメールをいただきました。ご主人からのメールは愛情に溢れており、幸せそうに微笑む徳子さんの顔が自然と思いだされました。ご冥福をお祈り申し上げます。



平成26年7月20日 於 ホテルグランビア大阪

プチ同窓会

澤勢 瑞城（平15）

10月18日土曜日18時より福岡市のグランドハイアット福岡にて'03学士'05修士'08博士卒組長薬プチ同窓会を行いました。

きっかけはSNSのチャットを通して「みんなで集まりたいね」というところから始まり、今流行のLINE、Facebookなどを通して連絡を取り合い、なんとか(笑)8名の精鋭！？が集まった。

今回は皆で次の同窓会はこうしようというような意見交換の場＝プレ同窓会としての位置づけとなったが、グランドハイアットの優雅な空間に癒され、これまた一流のシェフの料理に舌鼓を打ち、互いの近況、世間話にととても楽しい時間を過ごさせてもらった。

ぜひ次回は多くの人が出席できるような会としたいということを誓いアラサー～アラフォーの紳士・淑女たちは会場を後にした。

初めて同窓会を主催する側に回って思うことは、これは現役学生たちにもかなり耳だこで伝えていることであ

るが、長薬同窓会の存在がいかに大きく、大切であるか！である。

私たちはこの度SNSを通して企画し、連絡をとり行ったが、次回規模を拡大して行うにあたり柏葉会館の存在は外せない。同窓会にはこれまで長薬が在って来た歴史があり、先輩方から現役生に至るまで多くのデータベースも存在する。また、近年の社会問題でもある「シェアカツ」についても、同窓会を通し様々なフィールドで活躍しておられる先輩方からの意見を頂戴することが、きっと学生たちの活動を有利にすすめることにもつながるであろう！

昨今の学生たちが柏葉会館と縁遠くなっていることを耳にし、老婆心ながら警鐘を鳴らしておきたい。と少々脱線気味であるが、とにかく次回開催に当たってはぜひ長薬同窓会のお力を拝借したいことを挙げさせて頂きまして筆を置きたいと思います。



平成26年10月18日 於 グランドハイアット

上段左より 澤勢瑞城、中村心一、真屋知典、有村麻美

下段 左より亀井みどり、稲岡奈津子、平原（二宮）尋子、江頭（山下）みさき

卒後10年記念同窓会

高原（富松）規子（平17）

ある冬の日に同級生と食事に行ったときのこと。「私たち大学卒業してどのくらいだっけ?」「もうそろそろ10年だよ!じゃあ同窓会しなきゃいけないかな?長崎離れてる人多いけどみんな来てくれるかな?するなら3連休の中日とか?それなら7/20とかいいんじゃない?Facebookで聞いてみようか」

投稿「薬学部同級生のみんな、7/20に同窓会を長崎でするとしたらきてくれる??」

「行きたい!」「楽しそう!」「参加したいね」

「へえ、意外とみんな乗り気!じゃあ開催決定ね!」

こんな感じで、同級生との何気ない会話からたった数十分のうちに開催を決めた今回の同窓会。予定通り三連休中日の7/20（日）に長崎市内の銀鍋にて開催しました。当日は36名と2名のお子さんが集まってくれました。18時半ごろ乾杯で始まり、一人ひとり近況報告をしてもらいました。もちろん病院薬剤師、薬局薬剤師が多いのですが、中には医師、大学教員、MR、主婦そして全く薬とは関係のない別の職業に就こうとしている人などもいました。また、プライベートでは新たな家庭を築いた人、父や母となった人、もうすぐ父や母になる人などさまざま、同じ薬学部を巣立った仲間がそれぞれ別の道を歩み、その道を邁進しているのだなと実感し感慨深くもありました。

10年経っても、結婚して親になっても、久しぶりに会えば昔と変わらず楽しい仲間たちと楽しい時間を過ごすことができる。自然とあふれる笑顔。そうだ、私たちこんなに仲が良かったんだ。

今回同窓会を企画して本当に良かったと心から思った

瞬間でした。それから、今回の同窓会の案内はすべてFacebookやLINEやメールで行ったため、はがきの発送などのいわゆる幹事としての苦労はほぼなく、むしろ私が連絡先を知らない人たちに連絡を仲介してくれた人が大勢いてくれたことで開催することができたのですが、みんなが幹事の私に労いの言葉をたくさんかけてくれ、本当に感激しました。こちらこそ感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとう。

さて次は何年後に開催しましょうか。みんなの容姿がまだ変わらないうちに再会しましょうね。5年後くらいでしょうか。今から楽しみでなりません。それまでみんな元気でいてね。

ももとは約50名が参加したいと言ってくれていたのですが、仕事などやむを得ない事情で来られなくなった人たちもいました。次回同窓会でお会いできるのを楽しみにしています。今回の同窓会の写真はFacebookのグループ内にのみ公開していますのでぜひご覧ください。

<湊くんより>わかる人にはわかると思いますが、みんなで手がけた湊くんの学生当時の家の壁は敷金・礼金内で無事収まったとのことですのでご安心を。

参加者（敬称略、すべて旧姓）：ト部、大西、北川、城戸、木村、清原、黒崎、米谷、佐藤（伴）、柴田、杉本、須田、竹尾、田中、當房、中尾、永野、野田、野中、初田、原賀、福井、前園、松島、松村、松元（彩）、湊、三宅、村田、森山、山口（潤）、山下、山根、吉田（直）、吉田（弘）、富松



平成26年7月20日 於 銀鍋

塚元和弘教授 就任10周年記念同門会

稲嶺 達夫（平18）

去る9月21日長崎市のベストウエスタンプレミアホテルにて、薬物治療学教授塚元和弘先生の教授就任10周年記念同門会を行いました。塚元和弘先生は平成16年の12月に薬物治療学教授に就任され、来る12月で就任丸10年となります。そこで、10周年を記念し、新たな10年に向けて英気を養う機会にしようと記念同門会を開催いたしました。当日は、学部学生21名、51名の同門生および共同研究者の方々が、遠くは関東から駆けつけて下さり盛大な会となりました。



会の始めに、教授就任時の助手として塚元先生と共に研究室運営をされた柳原克紀病体解析診断学教授にご挨拶を頂き、黎明期のお話を伺いました。また、塚元先生

からのご挨拶では、各配属学年の教授評と共に10年間の歩みをお話して頂きました。どちらも、その時代を知らない卒業生や学部学生にとっては研究室の歴史を知る貴重な機会になったかと思います。また、参加できなかった同門生から頂いた写真メッセージも放映し、塚元先生だけでなく同門生同士でも近況を知ることができ、当日の会話がさらに盛り上がりました。ご協力頂いた同門生の方々にはこの場を借りてお礼申し上げます。



当日は2次会、3次会まで塚元先生をはじめ多くの同門生にご参加頂き、夜遅くまで思い出話や近況報告に盛り上がりました。先輩や後輩、そして同輩の仲間の活躍を聞き、負けないように研鑽し、塚元研究室の更なる発展に向けて頑張っていくと改めて期する機会となりました。



平成26年9月21日 於 ベストウエスタンプレミアホテル

平成18年卒同期会

藤井 修平（平18）

大学を卒業して8年半が経ちました、平成18年卒業生です。恒例?となった夏のバーベキューを長与で開催したところ、遠くは福岡県、熊本県からお越しいただきました。少人数ではありますが11人の同窓生が集まりました。SNSの普及で可能な分は連絡したつもりですが、仕事や家庭を持ったりで、同窓生全員が集まるのはなかなか難しいようでした。しかし、卒業して8年半が経ち、それぞれの同窓生が新たな責任のもと、この社会を支えている一員として頑張っているんだなあというのを実感したときでもあります。



さて、会場はというと、長与に隠れ家建てられた同窓生西脇さんの家です。以前訪ねた時よりもグレードアップしており、眼下に広がる大村湾の絶景にただただ“素晴らしい”の一言です。まだまだ暑い日差しの中、永井君の乾杯の発声とともに会が始まりました。今回は女性が一品料理を持ち寄るというコンセプトのもと、熊本県産スイカをはじめ、それぞれの特産物や一品料理をいただきました。社会人になり、もう中堅クラスの仲間入りの時期だと思いますが、仕事のこと、家族のこと、趣

味のことなど、昔以上に皆さんと喋って喋って楽しんでいました。同窓生のお子さんも来ており、終始可愛らしい笑顔を大人たちに披露し、正直、癒されました。



また、今回は我らの同期生稲嶺夫妻が留学のため、アメリカに発つ前の激励も兼ねており、旧友と最後まで笑ってはしゃぎました。稲嶺夫妻の今後の活躍と健康を祈念いたします。楽しい時間はあっという間に過ぎ去り、それぞれのフィールドに帰る時間が近づきました。筆者も勤務先の五島列島から参加しており、名残惜しい時間を噛み締めながらターミナルへと向かいました。

開催を企画した永井君、会場をお借りしました西脇さん、参加いただいた同窓生に感謝申し上げます。1年に1度、こういう形で会えることが本当に幸せな時間だと歳を重ねるにつれて思いが強くなってきます。来年は卒業10周年（入学14周年）ですが、節目の年ですのでまたみんなで何かしら企画したいなあと勝手に心の中で思っている秋の夜長です。ご一読いただきありがとうございます。



平成26年9月7日 於 西脇邸

薬剤師1年目で学んだこと～佐賀大学医学部附属病院での業務を通じて～

矢ヶ部 良太（平26）

私は平成26年3月で長崎大学薬学部を卒業し、4月から佐賀大学医学部附属病院で働いている新人薬剤師です。この文章を書いているのは10月ですから、長崎大学を卒業してもう半年になります。あっという間であり、かつ充実した6年間を過ごした母校では、学業や研究といった薬剤師にとって必要不可欠なものだけでなく、親身になって指導して頂いた恩師の方々や、生涯の友となる級友や先輩、後輩達など一生の財産となるものを数多く得ることができました。きっと皆さんも同じ体験をされたのではないかと思います。本来なら母校での経験をお話したいところなのですが、せっかくなので1年目の薬剤師である自分にしか書けない、この半年で経験したことと今の自分が感じていることを中心にお話したいと思います。拙い文章ではありますが、どうかお許しください。

まず、私が働いている佐賀大学医学部附属病院では、最初は研修期間が設けられています。特に最初の1か月間は、正式な薬剤師免許の交付がまだであり、調剤助手さんと同じような仕事をしながら、薬剤師の業務についてや基本的な知識を学びます。ここで、新人一人ずつそれぞれにプリセプターがついて指導を行います。この、プリセプターというのは、教育係兼相談係のようなもので、常に指導してもらわなければならないのですが、日々の業務の中で生じる疑問点や、理解できていないことなど色々なことをその都度質問でき、新人にとってはまさに親代わりのような存在です。基本的な調剤、監査、薬学的な知識だけでなく、院内での取り決めや機械の動かし方、備品の管理などは、日常業務の中で身に付けていきますが、そこでカバーできない分は、新人研修やプリセプターによる指導を通じて学んでいくのです。また、この期間でDIやTDM、製剤業務等については細かく研修が設けてあり、それぞれの部署で研修を行います。そして晴れて免許が届くと、正式に薬剤師としての業務が行えるようになります。この後も調剤室もしくは注射室での業務、研修が約3か月間続き、それを終えて初めて1人前と認められ、当直にも入ることができるようになります。

ます。そしてそこからは、また新しい研修“病棟研修”が始まります。

病棟研修では、内科、外科、救急系の3つの病棟が研修先となり、それぞれに病棟ごとで扱っている薬剤や、当然ですが患者さんの病態も全く違ってたいへんよい研修になりました。まず、内科では、自分は肝臓・糖尿病系の病棟であったのでハイリスク薬である内服の糖尿病治療薬やインスリン自己注射を使用している患者さんや、ウイルス性肝炎治療薬の使用が多く、服薬指導の重要性が実感できました。外科系では、ほぼ手術目的での来院であり、術前中止薬の抗血栓・抗血小板薬や腎機能・肝機能、副作用に応じた術後鎮痛薬やDVTの予防薬の管理が重要です。救急系では、輸液での投与が多いため配合変化の確認や、全身状態が悪いため適切な投与量の設定がなされているかの確認も重要になります。また、重症脳血管障害、冠症候群、重症外傷など疾患も特徴的であることから使用される薬剤も特徴的です。それぞれの病棟で薬剤師の関わり方は少しずつ違うものの、いずれも薬剤師が持ちうる知識を生かすことができ、それによってより質の高く安全な薬物療法への貢献につながっていることを実感できました。

そして現在は製剤室での研修が始まろうとしています。研修期間が終わった調剤室や病棟業務に関しては、未熟ではありますが一人の薬剤師として担当することになり、改めて自らの薬学的知識を深めることの重要性を感じています。この半年では、業務に慣れることを第一に忙しく過ごしてきましたが、学会や研修会にも行かせて頂き、自らの見識を深めるとともに大変良い刺激を受けることができました。また、長薬同窓会総会や九州山口沖縄地区大学病院対抗ソフトボール大会など様々ところで長崎大学の先輩方にお会いでき、改めて長薬同窓生の絆の深さを実感できた半年間でもありました。本当に長薬卒業生でよかったと思います。今後も九州山口薬学大会などで皆さんにお会いできる機会を楽しみにしています。

平成26年度九薬連

松本 啓秀（学部3年）

平成26年5月3日～5日にかけて、第57回九州薬学連盟体育大会が長崎大学主催のもと、長崎で行われました。

地元開催ということもあり、運営が大変な中、多くの方の支えにより、無事大会を終えることができました。試合を通して、他大学の方とも交流を深めることができ

たと実感しています。

遠方より、応援に駆けつけて下さった先輩方、ありがとうございました。

結果は以下の通りです。

バレーボール部

- ・予選リーグ 長大 2 - 0 第一薬科大
長大 1 - 2 熊大
- ・準決勝 長大 0 - 2 熊大



- ・順位決定戦 長大 2 - 1 第一薬科大
長大 0 - 2 長崎国際大



野球部 (三位)

- ・一回戦 長大 9 - 7 長崎国際大
- ・二回戦 長大 6 - 7 福大
- ・三位決定戦 長大 8 - 7 崇城大



バドミントン部

- 長大 2 - 3 熊大
- 長大 1 - 4 崇城大
- 長大 0 - 5 福大
- 長大 2 - 3 九保大



硬式テニス部 (男子)

- 長大 1 - 6 福大
- 長大 1 - 6 崇城大

硬式テニス部 (女子)

- 長大 0 - 7 九保大
- 長大 4 - 3 第一薬科大



バスケットボール部 (男子) (三位)

- ・予選リーグ 長大 70 - 49 長崎国際大
長大 60 - 67 第一薬科大
- ・決勝トーナメント
長大 50 - 58 崇城大

バスケットボール部 (女子)

- 長大 45 - 55 第一薬科大
- 長大 38 - 60 熊大
- 長大 37 - 60 福岡大



サッカー部 (三位)

- ・予選リーグ 長大 0 - 2 福大
長大 1 - 0 崇城大
長大 1 - 3 第一薬科大

旧小野島校舎跡記念碑清掃

松尾 洋介（平15）

2014年11月9日（日）に旧小野島校舎跡記念碑周辺の清掃を行いました。前日には雨が降り天候が心配されましたが、当日は雨が降ることはなく、無事に清掃作業を行うことができました。

記念碑周辺の雑草やゴミを取り除き、記念碑をきれいに拭きあげました。さらに、記念碑の周囲に石を敷き詰めました。小一時間ほどで清掃作業を終えた後、参加者全員で記念撮影を行い、例年と同様に諫早市内の鰻屋で食事会を行いました。食事会では全員の自己紹介もあ

り、先輩方の貴重な学生時代のお話も何うことができました。

最後に、今年の参加者のお名前は次の通りです。山中会長ご夫妻、麻生（昭24）、松本（昭24）、峰（昭26）、立石（昭26）、濱田（昭54）、藤島（平3）、梶島（平4）、川上（平7）、岸川（平10）、松尾（平15）、宮元（平20）、武次（事務局）です。お忙しい中、参加して頂きありがとうございました。



平成 26 年度白衣贈呈式

宮元 敬天（平20）

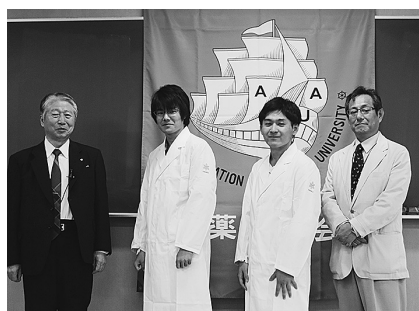
去る10月1日、薬学部1年生への白衣贈呈式が執り行われました。

まず、中山学部長よりご挨拶と白衣授与式を行うこととなった経緯について説明が行われました。

続いて山中会長より1年生へ同窓会から白衣を授与する思いを伝えた頂いたのちに、薬学科および薬科学科の代表者1名ずつに柏葉のロゴ入りの白衣が授与されました。

今回授与された白衣は実務実習や早期体験学習などの際に着用し、長薬同窓生の一員であることを認識していただきたいと思います。

今後も白衣授与式などを通じて学部生に同窓会活動について身近に感じてもらい、同窓会への参加などが増えることを期待しています。



クラブOB会だより

平成26年野球部OB会

米澤 敬大（学部3年）

平成26年11月8日の土曜日、宝来軒別館にて毎年恒例の野球部OB会が開催されました。今年の参加者はOB32名と現役部員21名でした。

会を開催するに際して、野球部同窓会長の西脇金一郎先生（昭33）からご挨拶をいただき、田原 務先生（昭51）の乾杯のご発声でOB会がスタートしました。中華料理を口に運び、ビールや紹興酒を飲みながら、OBの方々から当時の野球部のお話を聞いたり、研究室や就職してからの辛かった話、笑える話、タメになる話など野球以外にも多くのお話を聞かせていただきました。

会の中盤には西脇先生から準硬式ボールを寄贈していただき、それに応えるように現役部員からは巻頭言と校歌が力強く歌われました。

最初は別々のテーブルに座っていたOBと現役部員もいつの間にか入り乱れて会場は笑い声に包まれていました。

最後に澤勢瑞城さん（平15）に万歳三唱で会を締めくくっていただきました。

お忙しい中、ご参加いただいた上に部費まで寄付してくださったOBの皆様、本当にありがとうございます。こうした伝統ある交流がいつまでも続き野球部の輪が広がっていくことを願っています。来年も引き続きたくさんのご参加をよろしくお願いします。

なお、翌日に予定されていたOB戦は雨のため残念ながら中止となりました。



平成26年度薬学バスケットボール部OB戦

松本 啓秀（学部3年）

11月2日（日）に薬学バスケットボールOB対現役生による交流戦が行われました。今年で4回目となりました。遠方からきていただいた先輩方、ありがとうございます。

多くの先輩方とは面識がなくはじめは緊張していましたが、ゲーム数を重ねるにつれて緊張もほぐれていきました。いざ試合が始まると先輩方はOBには見えないほどの、きれがありました。得点を決めるたびに外野から歓声が沸きました。現役生のレギュラー陣も「あれは止められないな」「軸がぶれなさすぎる…」と呟いていま

した。

交流戦の後には居酒屋で現役生とOBを交えての親睦会が行われました。社会人生活の話や、先輩方の学生当時の様子など、有意義な話を聞かせていただきました。

薬学バスケットボール部OB戦は4回目とまだまだ歴史は浅いですが、今後とも繋がりを大切にして、発展していければと思います。今回は残念ながら参加できなかった先輩方のご都合がつかましたら、来年のOB戦に是非ご参加ください。現役生一同心よりお待ちしております。



平成26年11月2日 於 長崎大学総合体育館

第30回薬学硬式庭球部OB会

矢野 玄馬（平26）

11月1日、2日の二日間、今年で第30回を迎える薬学硬式庭球部OB会を開催いたしました。

1日は松山の市営庭球場にてOB対現役生による対抗戦を行いました。途中雨が降るようなこともありましたが、屋根付き全天候型コートのおかげで問題なくテニスを楽しむことができました。

山本先輩（院昭55）、松原先輩（昭58）、西田先生、顧問の百武さんを始めとする方々がお忙しい中都合をつけて頂き、多くの試合をすることができました。三根先輩（昭60）、松下先輩（平2）、下田先輩（平2）、古賀先輩（平8）、梅北先輩（平11）、高橋先輩（平13）、林先輩（平13）、百武先輩（平21）といった先輩方がこの第30回に集って下さったことは特筆すべきことであります。試合結果は、例年通りOB、OGの勝利となりましたが、例年以上の接戦となりました。現役生の成長が伺える内容ではありましたが、来年はさらにより試合になるよう、現役生には一層練習に励んでもらいたいと思います。各試合後には、対戦したOB、OGの方からご助言を頂き、現役生にとって大変有意義な経験となりました。

対抗戦後は、懇親会を五島町のサンプリエールで行いました。例年とは異なりホテルでのパーティー形式で行



いましたが、参加者はOB、OG、現役生合わせて70名ののぼり大盛会となりました。今年は高橋先輩（平13）が東邦大学の准教授に御就任されたのを祝して花束の贈呈が行われました。現役生の自己紹介、OBの方々の話と進み、現役生にとってはテニスについて、また普段は聞けないような仕事についてのお話を聞いた貴重な時間であったと思います。二次会、三次会と多くのOBの方々が参加して下さいたことも、忘れられない思い出となりました。

長崎大学薬学硬式庭球部OB会も節目の30回を迎え、これからもさらに発展していくことと思われます。今年は残念ながら出席できなかった先輩方もご都合がつかましたら、来年のOB会に是非ご参加下さい。現役一同、心よりお待ちしております。



平成26年11月1日 於 サンプリエール

庶務報告

岸川 直哉（平10）

○定例理事会

平成26年4月6日（日）13時00分より薬学部第2講義室で開催されました。山中國暉同窓会長（昭43）の挨拶の後、平成25年度事業報告および決算報告、役員改選案、平成26年度事業計画案および予算案が討議されました。

続いて、長崎支部ぐびろ会の濱田哲也会長（昭54）よりANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒル（長崎市）で開催される平成26年度長薬同窓会定期総会について説明がありました。

○平成26年度長薬同窓会定期総会

平成26年6月7日（土）17時00分より、長崎市のANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルにて開催されました。総会では、山中会長による開会挨拶の後、物故者への黙祷が行われました。その後、井上志郎氏（昭43）を議長に選出して議事に入り、平成25年度の事業報告ならびに決算報告、それに対する監査報告がなされ、承認を得ました。続いて、役員改選に関して討議が行われ原案どおり承認を得ました。引き続き、新役員より平成26年度事業計画案ならびに予算案が示され、こちらも原案どおり承認されました。また、来年度の総会（北九州市）について北九州支部増田和久支部長（昭50）より説明がありました。総会終了後、川上 茂教授

（平7）に「創薬と育薬を繋ぐ医薬品情報学研究：革新的な標的指向DDS開発と薬・薬学連携体制の構築」というタイトルでご講演をいただきました。その後に開かれた懇親会では、長大薬学部の軽音楽サークル「ブルーマウンテン」の学生による東京事変の楽曲の演奏等の余興もあり、また、大学院生や学生も参加して、大変和やかで盛大な懇親会となりました。

○支部長交代

- ・長崎県央支部 新支部長 田中秀二氏（昭46）
平成26年10月26日支部総会で決定
- ・関東支部 新支部長 原 正朝氏（昭60）
平成26年11月8日支部総会で決定

○長薬同窓会関連施設の維持・管理

平成26年8月3日（日）に予定されていたグビロが丘原爆慰霊碑周辺の清掃は残念ながら雨天中止となりました。後日、慰霊碑の清掃のみ事務局で行ないました。また、11月9日（日）に小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃を同窓会本部役員・同窓生・事務局で行ないました。

○寄贈

下村 脩先生（昭26）よりご自身の著書「光る生物の話」1冊の寄贈がありました。寄贈図書は同窓会室に保管しております。

物 故 者 氏 名

前会報（53号）に発表のあとなくなった方、及び死亡が判明した方（敬称略）

氏 名	卒年次	死亡年月日	氏 名	卒年次	死亡年月日	氏 名	卒年次	死亡年月日
柴 崎 壽一郎	特	平26.7.27	川 口 昭 二	昭25	平25.9.-	副 島 英 夫	昭30	平25.10.19
荒 木 豊 成	昭12	〃26.4.28	牟 田 良 夫	〃25	〃26.3.21	築 瀬 鴻 明	〃30	〃25.10.-
佐 藤 知 道	〃16.12	〃25.12.29	八重津 蘭 吉	〃25	〃25.4.1	南 里 次 郎	〃31	〃24.6.27
田 所 潔	〃16.12	〃25.6.6	野 村 忠 輔	〃25	〃26.1.27	宮 崎 圭 介	〃31	〃26.6.23
加藤（有益）守	〃22	〃26.2.3	島 原 芳 高	〃25	〃26.6.15	深山（市丸）英伍	〃32	〃25.8.-
岡 部 利 成	〃22	〃26.3.13	河田啓次（正寛）	〃26	〃26.3.29	大 坪 一 紀	〃41	〃25.12.29
安 東 喜久男	〃23	〃26.7.2	河 田 良 平	〃26	〃26.2.9	岩 崎 晋	〃47	〃26.2.19
鮫 島 貫志郎	〃23	〃26.7.11	黒 田 隆 次	〃26	〃26.1.12	山口（岸高）久美子	〃47	〃26.4.28
齊 藤 長 門	〃23	〃26.1.16	池 田 治 昭	〃28	〃25.11.13	藤 田 誠	〃43	〃26.5.23
中 村 孝	〃23	〃25.5.29	山 口 博 之	〃28	〃25.5.1	藤田（相原）徳子	〃59	〃25.11.1
秦 憲 典	〃24	〃26.6.22	原 口 保 雄	〃29	〃25.9.9			
西 依 廣	〃24	〃26.11.27	宝珠山 貞 浩	〃29	〃25.12.-	計		34名

学 内 記 事

(海外渡航)

種別	職 名	氏 名	渡航先国	期 間	渡 航 目 的
出張	教 授	畑 山 範	台 湾	25.11.19～25.11.22	The 11th International Symposium on Organic Reaction (ISOR-11) 参加, 成果発表, 情報収集
出張	教 授	尾野村 治	台 湾	25.11.19～25.11.22	The 11th International Symposium on Organic Reaction (ISOR-11) 参加, 成果発表, 情報収集
出張	准教授	石原 淳	台 湾	25.11.19～25.11.22	The 11th International Symposium on Organic Reaction (ISOR-11) 参加, 成果発表, 情報収集
出張	教 授	植田 弘師	ベトナム	25.11.19～25.11.23	IASP Council ミーティングへの参加, 情報収集
出張	助 教	村松 渉	中 国	25.11.30～25.12.5	International Symposium on Catalysis and Fine Chemicals 2012 参加, ポスター発表, 打ち合わせ
出張	准教授	麓 伸太郎	オーストラリア	26.4.12～26.4.18	Pharmaceutical Sciences World Congress 2014 参加, ポスター発表, 情報収集
出張	准教授	田中 義正	アメリカ	26.5.15～26.5.20	6th International gd-T cell Conference 参加, 情報収集
出張	准教授	淵上 剛志	アメリカ	26.6.7～26.6.13	Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging 2014 annual meeting 参加, 研究発表, 情報収集
出張	教 授	黒田 直敬	スウェーデン	26.6.22～26.6.29	18th International Symposium on Bioluminescence and Chemiluminescence 参加, 研究発表, 情報収集
出張	教 授	植田 弘師	アメリカ	26.6.27～26.7.2	Neuroimmunology Symposium 出席, 研究発表, 情報収集
出張	教 授	植田 弘師	カナダ	26.7.12～26.7.20	International Narcotics Research Conference 2014 出席, 研究発表, 情報収集
出張	准教授	齋藤 義紀	中 国	26.7.30～26.8.16	研究材料であるキク科Ligularia属および関連植物の採取をおこなう
出張	准教授	大山 要	タイ	26.8.5～26.8.10	7th AOHUO 参加, 情報収集
出張	助 教	上田 篤志	アメリカ	26.8.9～26.8.15	248th ACS National Meeting&Exposition 出席, 情報収集
出張	教 授	田中 正一	ブルガリア	26.8.29～26.9.6	第33回ヨーロッパペプチド討論会参加, 研究発表, 情報収集
出張	准教授	大庭 誠	ブルガリア	26.8.30～26.9.6	第33回ヨーロッパペプチド討論会参加, 研究発表, 情報収集
出張	教 授	中嶋 幹郎	スコットランド	26.9.5～26.9.11	EUROTOX 2014 (欧州毒性学会) 参加, 研究発表, 科研費研究課題の打ち合わせ
出張	准教授	石原 淳	フランス	26.9.13～26.9.20	第24回日仏医薬精密化学会議に出席, 研究発表, 情報収集
出張	教 授	畑 山 範	フランス	26.9.13～26.9.23	第24回日仏医薬精密化学会議に出席, 情報収集, 研究打ち合わせ
出張	教 授	植田 弘師	アルゼンチン	26.10.6～26.10.13	15th World Congress on Pain in Buenos Aires 参加, 研究発表, 情報収集
出張	助 教	宮元 敬天	アメリカ	26.10.17～26.10.25	29th JSSX Meeting and 19th North American ISSX Meeting 参加, 研究発表, 情報収集
出張	教 授	植田 弘師	スウェーデン イタリア	26.10.18～26.10.27	研究打ち合わせ, サイモシン研究会出席, 研究発表, 情報収集
出張	准教授	米澤 朋	オーストラリア	26.10.25～26.10.31	ICIS 2014 出席, 研究発表, 情報収集

(異 動)

異動年月日	異動内容	職	氏 名	所属研究室	備 考
26. 2. 1	昇 任	准教授	淵 上 剛 志	衛 生 化 学	助教より
26. 2. 20	採 用	助 教	上 田 篤 志	薬 化 学	部局テニュア・トラック 米国ハーバード大学化学生物化学科リサーチアソシエイトより
26. 3. 31	退 職	准教授	和 田 光 弘	医療情報解析学	九州保健福祉大学薬学部教授へ
26. 3. 31	退 職	助 教	高 橋 圭 介	薬品製造化学	東邦大学薬学部准教授へ
26. 3. 31	退 職	助 教	池 田 理 恵	医療情報解析学	調剤薬局へ
26. 3. 31	退 職	助 教	酒 井 佑 宜	分 子 薬 理 学	有期雇用 横浜薬科大学講師へ
26. 4. 1	採 用	助 教	吉 田 さくら	衛 生 化 学	部局テニュア・トラック 厚生労働省福岡検疫所食品監視課監視係より
26. 4. 1	採 用	助 教	春 山 貴 弘	感染分子薬学	部局テニュア・トラック 株式会社AVSSプロジェクトリーダーより
26. 4. 1	採 用	助 教	淵 上 由 貴	医薬品情報学	
26. 6. 30	退 職	助 教	水 谷 龍 明	創 薬 薬 理 学	有期雇用 京都大学ウイルス研究所特定助教へ
26. 9. 1	採 用	准教授	米 澤 朋	創 薬 薬 理 学	有期雇用 東京理科大学生命医科学研究所嘱託助教より
26. 10. 1	採 用	准教授	塚 原 完	創 薬 薬 理 学	金沢医科大学医学部特定講師より
26. 11. 1	採 用	助 教	西 丸 達 也	薬品製造化学	

(学位授与)

学位記番号	学位の種類	氏 名	学位授与年月日	学位記番号	学位の種類	氏 名	学位授与年月日
甲第668号	博士（薬学）	ウラベ フミヤ 浦辺 郁也	平成26年3月20日	甲第712号	博士（医学）	チン リンハン 陳 玲瀚	平成26年9月19日
甲第669号	博士（薬学）	マツバラ タカアキ 松原 孝昌	平成26年3月20日	甲第715号	博士（薬学）	オモトウイ イドゥ オラボシ OMOTUYI IDOWU OLAPOSI	平成26年9月19日
甲第670号	博士（薬学）	シ イ タクヤ 四位 拓也	平成26年3月20日	甲第716号	博士（薬学）	ジュリアス ム エンダ ウィリアム Julius Mwenda William	平成26年9月19日
甲第671号	博士（薬学）	ミネ トヨハル 嶺 豊春	平成26年3月20日	甲第717号	博士（薬学）	モハメドオマー モハメド MOHAMED OMAR MOHAMED ABO ZID	平成26年9月19日
甲第672号	博士（薬学）	ヨシカワ ナオキ 吉川 直樹	平成26年3月20日	甲第718号	博士（薬学）	アームド フィリ モハメド イブラヒム アームド Ahmed Fikry Mohamed El-Mahdy Ahmed	平成26年9月19日
甲第678号	博士（医学）	イ チ ノ セ トオル 一ノ瀬 亨	平成26年3月19日	甲第719号	博士（薬学）	シュベンド ドラグーシャ Shpend Dragusha	平成26年9月19日
甲第710号	博士（薬学）	モハメド サヒブ モハメド モーサ エリガウィッシュ Mohamed Saleh Mohamed Mousa El-gawish	平成26年9月 3 日	甲第720号	博士（薬学）	モハメド アボエルハムド イブラヒム フセイン Mohamed Aboulhamd Ibrahim Hussein	平成26年9月19日

長 薬 同 窓 会 役 員

(平成26年10月)

本部役員

会 長	山 中 國 暉	昭和43年	あおかた調剤薬局
副 会 長	田 原 務	昭和51年	うれり薬局
〃	佐々木 均	昭和53年	医学部教授 長大病院薬剤部長
〃	七 種 均	昭和56年	十善会病院薬剤部
〃	中 嶋 幹 郎	昭和57年	薬学部教授
〃	藤 島 さとみ	平成3年	つばさ薬局
監 査	原 田 均	昭和51年	
庶務幹事	岸 川 直 哉	平成10年	薬学部准教授
会計幹事	梶 島 力	平成4年	薬学部准教授
編集幹事	川 上 茂	平成7年	薬学部教授
幹 事	松 尾 洋 介	平成15年	薬学部助教
〃	稲 嶺 達 夫	平成18年	薬学部助教
〃	宮 元 敬 天	平成20年	薬学部助教
顧 問	伊豫屋 偉 夫	昭和41年	

学年理事

昭和20年	池 田 保 彦	昭和45年	中 村 博 子	平成5年	森 本 仁
昭和22年	田 崎 和 之	昭和46年	大 西 裕 子	平成6年	岩 永 真
昭和23年	中 原 潜	昭和47年	松 本 逸 郎	平成7年	南 元 義
昭和24年	麻 生 忠 介	昭和48年	井 手 清 輝	平成8年	野 元 秋
昭和25年	塚 崎 邦 彦	昭和49年	馬 場 満 輝	平成9年	平 良 文
昭和26年	峰 崎 唯 信	昭和50年	北 村 美 江	平成10年	岸 川 直
昭和28年	吉 田 一 美	昭和51年	原 田 均	平成11年	水 野 和
昭和29年	野見山 季 治	昭和52年	池 崎 隆 司	平成12年	松 永 隼
昭和30年	帆 士 辰 雄	昭和53年	町 田 毅	平成13年	兒 玉 幸
昭和31年	桑 山 晶 子	昭和54年	濱 田 哲 也	平成14年	小 西 宏
昭和32年	長 田 雅 子	昭和55年	大 田 佳 史	平成15年	原 田 周
昭和33年	西 脇 金 一 郎	昭和56年	山 口 正 広	平成16年	柴 田 豪
昭和34年	松 尾 幸 子	昭和57年	高 良 真 也	平成17年	永 井 潤
昭和35年	木 下 敏 夫	昭和58年	宮 崎 幹 雄	平成18年	細 井 雄
昭和36年	武 田 成 子	昭和59年	中 村 忠 博	平成19年	筒 井 翔
昭和37年	吉 田 研 次	昭和60年	塩 田 英 雄	平成20年	簡 桑 拓
昭和38年	岡 木 隆 治	昭和61年	本 多 隆	平成21年	永 田 一
昭和39年	鈴 木 隆 治	昭和62年	森 川 隆	平成22年	中 田 子
昭和40年	松 村 祐 子	昭和63年	神 山 朝 光	平成23年	川 本 義
昭和41年	伊豫屋 偉 夫	平成1年	白 川 奈 奈 子	平成24年	朝 鍋 早
昭和42年	井 上 一 顕	平成2年	山 本 稔	平成25年	朝 長 玲
昭和43年	井 上 志 郎	平成3年	前 田 理 恵	平成26年	門 田 善 法
昭和44年	中 村 和 子	平成4年	梶 島 力		

院1～院5 (昭和42年～昭和46年) 富永 義則 (昭和46年)
 院6～院10 (昭和47年～昭和51年) 高橋 正克 (昭和49年)
 院11～院15 (昭和52年～昭和56年) 大木 豊 (昭和54年)
 院16～院20 (昭和57年～昭和61年) 中嶋 幹郎 (昭和59年)
 院21～院25 (昭和62年～平成3年) 本多 雅幸 (平成1年)
 院26～院30 (平成4年～平成8年) 富田 守 (平成4年)
 院31～院35 (平成9年～平成13年) 原田 祐樹 (平成9年)
 院36～院43 (平成14年～平成18年) 大山 要 (平成14年)
 院44～院53 (平成19年～平成23年) 竹尾 公秀 (平成19年)
 院54～院 (平成24年～) 門脇 彩香 (平成24年)

長 薬 同 窓 会 支 部 一 覧

(平成26年11月)

長崎支部ぐびろ会	会 長	濱 田 哲 也 (昭 54)
長 崎 県 北 支 部	支部長	相 川 康 博 (昭 48)
島 原 支 部	支部長	
長 崎 県 央 支 部	支部長	田 中 秀 二 (昭 46)
佐 賀 支 部 若 楠 会	会 長	藤 戸 博 (院昭52)
福 岡 支 部	支部長	
北 九 州 支 部	支部長	増 田 和 久 (昭 50)
大 分 支 部	支部長	石 橋 眞 (昭 49)
宮崎支部日向浦陵会	会 長	田 中 重 雄 (昭 45)
鹿 児 島 支 部	支部長	森 昭 雄 (昭 28)
熊 本 支 部	支部長	山 本 喜一郎 (院昭55)
山 口 支 部 抜 天 会	会 長	今 村 明 久 (昭 46)
広 島 支 部	支部長	青 野 拓 郎 (昭 52)
岡 山 支 部	支部長	歳 森 三千代 (昭 49)
山 陰 支 部	支部長	橋 本 覚 (昭 52)
四 国 支 部	支部長	井 上 智 喜 (昭 54)
近 畿 支 部	支部長	梶 野 繁 (昭 42)
東 海 支 部	支部長	
関 東 支 部	支部長	原 正 朝 (昭 60)
沖 縄 支 部	支部長	
北 海 道 支 部	支部長	

平成25年度長薬同窓会収支決算報告

平成26年 3月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	9,343,577	通 信 費	1,468,324
会 費 (延2309名)	6,927,000	総会案内・名簿・会報送送料	1,002,239
入 会 金 等	1,120,000	振 替 加 入 者 負 担 金	198,860
預 金 利 息	1,610	事 務 連 絡 郵 便 料	199,090
雑 収 入	500	電 報 電 話 料	68,135
名 簿 広 告 料	400,000	印 刷 費	3,537,149
		名 簿 ・ 会 報 他 印 刷 費	3,537,149
		会 合 費	61,666
		理 事 会 そ の 他 会 合 費	61,666
		旅 費	729,070
		会 長 出 張 費	93,250
		役 員 そ の 他 出 張 費	635,820
		補 助 費	1,124,000
		総会および支部会補助金	520,000
		そ の 他 補 助 金	604,000
		維 持 管 理 費	212,743
		原 爆 慰 霊 碑	184,663
		小 野 島 記 念 碑	28,080
		事 務 費	73,878
		事 務 用 品 費	19,702
		電 算 機 費 用	54,176
		人 件 費	2,710,603
		雇 員 給 料 手 当	1,030,000
		雇 員 交 通 費	33,600
		臨 時 雇 員 手 当	1,647,003
		雑 費	516,290
		会 員 見 舞 弔 慰 金	152,130
		そ の 他	364,160
		次 年 度 繰 越 金	7,358,964
合 計	17,792,687	合 計	17,792,687

会計幹事、梶島力氏立会のもと、平成25年度に関する帳簿及び預金通帳を詳細に監査した結果、記帳及び計算は妥当かつ正確なものであり、上記の通り相違ありません。

平成26年 4月28日

監 査

原 田

均



平26年度長薬同窓会予算

平成26年 4 月 1 日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	7,358,964	通 信 費	1,420,000
会 費 (延2500名)	7,500,000	総会案内・会報送料	700,000
入会金等(6年制42名, 4年制43名)	1,188,000	振替加入者負担金	320,000
預 金 利 息	1,800	事務連絡郵便料	300,000
		電 報 電 話 料	100,000
		印 刷 費	1,300,000
		会 報 他 印 刷 費	1,300,000
		会 合 費	80,000
		理 事 会 そ の 他 会 合 費	80,000
		旅 費	1,100,000
		会 長 出 張 費	400,000
		役 員 そ の 他 出 張 費	700,000
		補 助 費	1,850,000
		総会および支部会補助金	700,000
		そ の 他 補 助 金	1,150,000
		維 持 管 理 費	240,000
		原 爆 慰 霊 碑	200,000
		小 野 島 記 念 碑	40,000
		事 務 費	450,000
		事 務 用 品 費	50,000
		電 算 機 費 用	400,000
		人 件 費	3,064,000
		雇 員 給 料 手 当	1,030,000
		雇 員 交 通 費	34,000
		臨 時 雇 員 手 当	2,000,000
		雑 費	650,000
		会 員 見 舞 弔 慰 金	200,000
		そ の 他	450,000
		予 備 費	5,894,764
合 計	16,048,764	合 計	16,048,764

新刊図書のご紹介

「光る生物の話」

朝日新聞出版 定価1,300円（税別）

下村 脩（昭26）

- I 生物の発光は冷光である
- II 生物発光の様式について——細胞内発光と細胞外発光の違い
- III 生物発光の化学をどのようにして研究するか
- IV 生物発光について今までに化学的に判っていること
- V 光を放つ化学反応
- VI 生き物が光を放つ目的——なぜ光るのか？
- VII 発光生物の種類と特徴
- VIII 生物発光の応用

地球には、みずから光を発するさまざまな生き物がある。ホタル、バクテリア、イカ、クラゲ、貝、ミミズ、ヒトデ、魚、キノコにも……発光生物は動物、植物などの区別なく、陸上、海中どこにでも幅広く存在し、どんな系統の生物が発光するのかについてはまったく規則性がないという。

これら多くの生物は、いったい何のために発光するのか、発光はどんな仕組みで起きるのか、その謎は昔から人々の心をとらえてきた。アリストテレス、プリニウス、ボイル、フランクリンも発光生物について言及している。

下村脩博士は50年にわたり発光生物の研究を続け、オワンクラゲから発光物質イクオリンを発見し、緑色蛍光たんぱく質の発見により2008年のノーベル化学賞を受賞した。その博士が初めて入門書を書き、生物発光の特徴、研究史、化学、発光の目的、応用など、生物発光のすべてをやさしく説明する。



※全国の書店にてお求めください。

同窓会報にて新しく創刊された卒業生の出版物を紹介しています。出版された方は、同窓会事務局までお知らせください。

事務局で扱っている図書等

在庫がありますのでご希望の方は事務局までお申し込みください。

「出島のくすり」九大出版会 定価1,400円（税別）を1,200円（送料込み）

日蘭交流400周年記念事業として、平成12年に長大薬学部教官により制作のもの。

「長薬100年のあゆみ」ビデオ（VHS）3,000円、DVD 3,500円（送料込み）

貴重な懐かしい写真・映像を2時間にわたり収録

「長崎薬専歌集」CDまたはカセットテープ（楽譜・歌詞カード付き）1,500円（送料込み）

同窓会事務局だより

今年も台風による水害、土砂災害、さらには御嶽山の噴火災害など悲しい事故が起こりました。被災された方にはお見舞い申し上げます。

さて、事務局を前任の大河内さんから引き継いで10年が経ちました。会員の皆様の変わらないご支援ご協力を心から感謝申し上げます。

この10年で新しく、会費納入にコンビニ振込の導入、発送作業の外注、ホームカミングデーへの参加、小野島校舎跡記念碑の清掃、白衣授与などの学生への支援が始まりました。

また、同窓会費は今年度から請求年数の限度が5年分から3年分に軽減されましたので、この機会に是非、会費納入へのご協力をお願いします。

今後とも同窓会へのご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

なお、ご住所等の変更はお早めにお知らせくださるようお願いいたします。

武次 郁子 記

編集後記

長薬同窓会会員の皆様にはお元気でご活躍のこととお喜びを申し上げます。ここに平成26年版、同窓会会報をお届けいたします。長薬同窓会の新たな取り組みとして、平成26年11月8日(土)に長薬同窓生による第一回先導的薬剤師の未来像を考えるシンポジウムを開催いたしました。平成27年2月14日(土)には、第二回先導的薬剤師の未来像を考えるシンポジウムの開催を予定しています。また、昨年度より長薬同窓会Facebookでの情報発信も行っています。今後も、会員の皆様には、同窓会会報、定期総会、各支部会活動を通じて、更なるご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、会員の皆様の一層のご健勝とご活躍を心より祈念いたします。

川上 茂 記

平成26年12月19日印刷

平成26年12月25日発行

長薬同窓会報

編集 川上 茂

発行 長薬同窓会

(郵便番号852-8131)

所在地 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部内

TEL 095-844-6383 (直通)

095-819-2471 (ダイヤルイン)

FAX 095-844-6383

メールアドレス jimukyoku@choyaku.jp

(郵便番号870-0913)

印刷所 大分市松原町2丁目1-6

小野高速印刷株式会社

TEL 0120-73-7288



長崎大学薬学部 長薬同窓会